# 愛國婦人

毎月五日二十日發行
一部金三錢 壹ケ月金六錢 半年分參拾六錢 全國無遞送料
廣告料一行六十錢
本號全部拾頁
東京麴町區(牛ヶ淵公園)
發行所 愛國婦人發行所
印刷人兼發行人 山澤俊夫
編輯人 大久保高明

△本號要目▽

剛情……………………………(社説)
母の恩……………………………岡田良平
婦人と蠶業(完)…………………本多岩次郎
歐米と婦人………………………三井すて子
米國婦人の長所(上)……………佐藤迷羊
人形の話…………………………坪井正五郎
西洋料理法………………………櫻井ちか子
煤掃の御参考……………………(家事)
小說寄宿人………………………田口掬汀
冬の句……………………………威美
信貴山紀行………………………オ子
藤田かの子傳……………………大島光利
應募和歌…………………………大口鯛二選
募應俳句…………………………内藤鳴雪選
愛國婦會人記事…………………(附録)

## 社説

### 剛情

兎馬——剛情の女性——夫を閉口させる——紙鳶の如し——目前の剛情もの

馬に似て耳長く形小さき動物あり、驢馬又は兎馬とも名く。このものに一つの癖あり。機嫌よきときは、人を乘せ、又車を牽きて、誠に重寶の動物なるが、何かの拍子に機嫌を損ずるときは、じれて、すねて、動かず。引張れば引張るほど、打てば打つほど、益々動かず。どうにもこうにも始末にをへざることあり。これは剛情といひて、驢馬に有名なる癖なり。然らばこの癖は、驢馬に限るかといふに、人間にも隨分ありて、殊にすなほに、おとなしかるべき筈の女性に、中々の剛情者あるこそ、案外千萬なれ。

一定の主義を有し、如何なる誘惑脅迫に遇ひても確乎として、その所信を枉げず行ひ通すといふは、頼もしき性質にして恒心、忠實、忍耐、意志の強固など呼ばれ、美德の中に數へらるれど、剛情は似て非なる惡德なり。剛情は前後一貫せる主義や理窟より、割り出したるものにあらずして、時々起る無茶苦茶の片意地なり、既に無茶苦茶なり、故に道理を說き聞かしたりとて、和らぐ氣遣なく、本人の言ふがまゝにして、見物し居るの外なし、辛抱づよき男子ならば、又始つたと我慢しても居れ、つひ腹に据ゑかねて、叱りてもすれば、口答へして、中々承知せず、萬一言ひ負くれば、反抗の武器を變じて、近所外聞をも恥ぢず、泣きわめきて、果てはいつそ殺してなど言ひ出して、夫を閉口せしむることあり。又風變りなるは、二日も三日も無言にて、とても笑はず何か賴みても返事もせず、獨り何かぶつぶつ言ひて、戸障子の開けたてを始め、子供への當りはげしく、夫をして嘆聲を洩らさしむるものもあり。世間剛情を以て鳴るの妻を有する者少からずと聞く、誠に氣の毒の至りなり。

剛情は紙鳶の如し、引張れば引張るほど手當り強くなるものなり。剛情は降參といふことを知らず、屈服せしめんとすれば、益々反抗す。實に剛情は、持て餘しものなり。然らば如何にせば、この剛情を矯むることを得るか。剛情に二種あり生れ付きの剛情と、親の仕付の遣り損ひより來れる剛情と、これなり。されば、この子は剛情と見れば、早くより寛嚴の處置を適當に施して、これを其萌芽に枯らさゞるべからず。子を愛するの餘り、我儘言ひ放題にして置けば、生れ付かずとも、剛情者となること受合なれば、親は甘く子を育つべからず。されば餘り嚴なれば、却て剛情となるの恐れあり。繼子などに剛情者多きは、その仕付嚴酷一方にして、思ひ遣りなければなり。要するに剛情を矯むるは、少時に限るものなり。されど、それは、今の問題にあらず立派に出來上れる目前の剛情者を、如何にしてよきかと問はるれば、そは少々手後れにて、中には別に妙案なし、諦むるの外なしといふ人もあれど、さほど思ひ切るに及ばず、短刀直入は禁物なれば、機嫌よき時を見計ひて、餘所の話をしたりなどして、遠廻しに、それとなく說き聞かせ、且成るべくやさしくすべし。いづれにしても、氣長の仕事なれば、根氣よく行ふべし。その中には、自然直るやうになるべし。知らずこれを讀みて、破顔微笑する者ありや否や。

(前號社説中「服の食物」は「眼の食物の」誤り)

## 社告

本誌發行所に於ては今回新たに編輯局員を增聘したれば、本號以後必ずや新たなる光彩の本誌上に加はり來るべきは同人等の信じて疑はざる處なり。希くは此際一層の愛顧を垂れ給はんとを謹みて白す

## 母の恩

京都帝國大學總長　岡田良平氏談

折角御訪問になつたのですが、別に考も浮びませんから、私の母の御話を致しませう。

自分の母を頌るのは可笑しい樣ですが、實際、私の母は一の實行的教育者で御座います。私の生家は、遠州掛川の豪農であつて、父の處に嫁いて參つてからは父は忙がしい人で常に外出勝であつたものですから、子供の教育等は母一人で遣つて來たのです。私や、兄の一木(法學博士一木喜德郎氏)などの爲に、家庭教師を聘するやうになつてからは、他の知己などの兒童までも賴まれて預かるやうになつたので、多い時には四十人以上も集つて居たことがありました。

これを驥北學舍と稱けまして、これらの者の賄、洗濯の世話から、生常の買物まで一々母が手を下したので、勿論會計のしめ、くゝりや、全體の監督は、父が遣つたのですけれども、實際の細々しい一切の仕事は、皆、母の盡力に依つたものでした。

これが明治十八九年まで續いたので、母が世話をした多くの學生の中からも、現在、世に知れるやうな地位に居る人々も尠なからず出たと云ふやうな次第であつたのです。父は二宮尊德翁の主義の實行者でありましたので、自然、學舍の方も、勤儉貯蓄躬行實踐と云ふ事を主義として居りました。

實に母は氣の毒なほど働いた人でして、胎敎などと云ふ事にも意を注ぎましたものですから、懷姙中にも、中村惕齋の「姫かゞみ」などを讀んで居ると云ふ風で、子女の教育には隨分熱心でした。恰度近頃、私共兄妹六人(一木博士、良平氏、及び杉村七太郎氏に嫁した令妹琴子、其他修學中の令弟等)が珍らしく一處に集りましたので、談偶々、此事に及び、母の恩誼の至大なりしことを語り合ひまして、大に今昔の感に打れましたので、一緒に寫眞を撮つて送りました。

母ですか、今は矢張り、父と共に掛川の方に居ります。三輪田眞佐子さんを大層信用して居ますので、時々出張して戴いて、近隣の人々に有益な御話を伺はせたりなど致して居ります。云々。

* * * * *

以上は、本誌の記者が過る日、新任京都帝國大學總長岡田良平氏を氏が小石川區白山御殿町の邸に訪れた砌、親しく物語られた談話の一節であります。

良平氏の嚴父は二宮尊德翁の主義實踐者を以て、廣く知られて居る人で其上、氏及び氏の令兄一木法學博士等、兄弟相揃つて、學界に成功して居らるゝと云ふ羨むべき結果を產出せる家庭の、如何ばかり淸き源泉を有して居らるゝかと云ふ疑團を抱いて居た記者は、恰も可矣、と、氏が新任總長として任に就き、新たに靑年を導びかるべく出發せらるゝ以前に、前記、平素懷抱せる疑團を解決せんとて訪問したのであつた。當時、氏は出發の日も程遠からぬことゝて、非常に多忙であられたのにも、かゝはらず、快く記者の乞を入れられて、以上の如く物語られたのは、實に望外の幸福でありました。

尚ほ前記、良平氏の談話中に在る、同氏の令弟には法學士竹山純平氏と云はる、のがある。純平氏は目下韓國に在勤して居らるゝとのことであるが、尚ほ又、令妹琴子女史の良人杉村七太郎氏は現に醫學士にして、東京に在住せらるゝとのことである。

附記　二宮翁五十年紀に組織されし婦人報德會は來九日午後一時上野音樂會にて開かるゝ由にて我が愛國婦人會諸氏には特に參會を望まるゝ由同會の井上友一氏より御案内が御座いました。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 論說

# 婦人と蠶絲業（接前號）

本多岩次郎

**蠶絲は國家經濟上缺くべからず**

又他の方面より之を觀察しますれば、蠶絲は吾國輸出品中第一に位する者でありまして、今や年々の輸出額一億圓内外の多きに達し、之れに羽二重その他の絹織物類を加ふれば實に一億五千萬圓以上の巨額となりますので、國家の經濟上缺くべからざる重要の地位に在ります若し斯業にして衰退せんか、本邦の貿易は到底輸出入の平均を保つことが出來ぬことゝなるのであります。是故に吾人は一般婦人に對し、國民たるの義務としても、斯業に盡力されんことを希望するのであります。

**女子の君國に奉ずる道とはいかに**

男子は成年に達しますれば、兵役に服して國家の干城となり、一朝事あれば則ち身命を擲げて君國に奉ずるの義務を負ふて居ります。婦人に於きましては、此の如き重大の義務を直接に負擔せらるゝことなき代りには、内に在りて身を脩め、家を整へ、以て男子をして、專ら其力を外に伸ぶることを得せしむると共に、傍國家の生存上必要なる業務に勉勵して、其繁榮と富強とに貢獻する所あるべきは當さに然るべき義務であると信じます。

**上中流社會婦人諸氏必要の一業務**

而して上流社會の婦人に在りては、之を以て衞生上の資けとなすべく、中流社會の婦人に在りては、併せて實利收得の一助と爲すことを得るのみならず、其間接の效果に至りては、更に重大なるものがあるのであります。即ち上、中流社會の婦人が此業務に心を寄せ、意を注がるゝに於ては、其一般人民に及す所の感化は極めて偉大にして、其効果或は當局の奬勵にも勝ることがありませう。

**養蠶製絲の業は歴代の聖意にそふ**

されば、吾人は一般婦人に對しては、事情の許す限り、多く養蠶製絲の業務に勉勵されんことを望むと同時に、上、中流社會の婦人諸君に對しては、成るべく此業務に關して、多くの趣味を持せられんことを希望して已まぬのであります。之れ即ち、上は歴代朝廷の聖意に副ひ、下は民衆の儀表となりて、國富の増殖を資け、かねて又、自家の幸福を増進する所以の途たるを得べきが故であります。（をはり）

# 歐米と婦人

愛國婦人會評議員　三井すて子

私は隨分澤山の國々を旅行しましたが、折惡しく、大抵の家では避暑に出掛けた其後へ參つたと申すやうな次第でありました。爲に自然多くの人々にはお目にかゝる機も少なかつたのでありますが、其中で感じましたことの一つは、英國のポートサンライトのリバーブラザースリミテッドカンパニーと申す所へ、石鹸の製造を見に參つたことです。此處で最感心いたしましたことは、其工場の機械と其職工を養ふて居る村の組織のことです。

**▲工場の機械と村の組織**

其機械は凡て人の勞力を省いてありまして、一例を擧げますと、石鹸を入れる紙の箱を作りますのに、一つの機械を通ります間に、白い紙が印刷せられ、疊まれ糊付けせられ、箱の形となつて出て參りますのに、一分間も費さぬ位でありますまた之れを入れる木の外箱を作りますのに、木を切り、釘を打ち、之れに詰めることまて、皆機械て出來、しかも何百といふ箱を作る大きな機械に、唯一二人の職工がついて居つて、其機械の注意を取つて居るのみです。其設備の壯大なること、又學理應用が實に盛んて人力の省けることは、想像の以外でありました。また此社に出勤する職工を養ふて居る村には、職工の家が二千戸、人口二萬程あります。

バイカル湖　（説明は此面の下の段にあり）

**▲職工村**

りまして、全く職工はかりて一村落を形作つて居ります。而して一家族は寢室、居間臺所より成る一家を構へ、一週僅か三圓の家賃を拂ふとの事です。然して子供の爲めには、學校が二箇所もあり、また體操場もあり、水泳場、演劇場、倶樂部、教會、病院等もあり、其中で教育も出來又種々な樂も出來、全く一社會をなして居ります。尚又た、職工には勤儉貯蓄の心を養ふやうな方法も設けられて居りまして、二十年も働く時は、生涯樂に暮さるゝ樣の組織になつて居ります。この樣に職工が廉き家賃にて住ふことを得、種々な教育、娯樂等の設備も完全であるが爲に、惡い誘惑などに陷ることなく、安らかに働きますから、自然子々孫々までも、此處に精勤する樣になるのであります。

**▲職工村の學校の有樣**

私は一寸其中にある學校を見舞ましたが、學校の内部はなかなか好く整頓して居り、且つ其設備も充分に整ふて居ります。教師は私共の爲めに歌を唱はせたり。又日本と云ふ事を記憶して居る事を示す樣な問答をなし等して、大切丁寧、親切に見せて呉れられました。學校を參觀して後、社長の住宅に案内されました。扨て其の住居の模樣を述べませう。

**▲社長の住宅の模樣**

社長の住宅は丁度會社から五哩程ありまして、其間の地面は、皆此社長に屬し、其中に支配人などの住宅があると聞きました。社長の宅では夫人が出て來られて、茶の饗應を受けましたが、夫人は大分老體ではありましたが、其住宅の中は素より其庭に在る溫室までも丁寧に案内され、懇切に話されました。夫人の談話によれば村の病院は殊に夫人が意を用ゐて經營されたとの事です。尚夫人は、時々職工を住宅に招いて種々の催をなし、職工を樂しませらるゝとの御話も出ました。

**▲米國の紡績會社**

米國にもかゝる組織のところがあるさうですが、參ります時がありませずして、參りませんでしたが、バドソンの紡績會社に一寸參りました時にも、其社長の夫人、令孃が、わざわざ住宅から出て來て、近所の倶樂部で私共に晝餐を饗應されましたので御座いました。

**▲文明國の婦人**

この樣に婦人が非常に趣味を持つて、其良人の仕事を補助者となり、内に外に、其仕事を良人と共にして居る有樣は、さすがに文明國の婦人であると感じました。殊に學ばねばならぬと思ひましたのは、婦人の社交に長けて居る事であります、男子は仕事の經營者であり、婦人は其仕事の關係を圓滿に調和する社交家である、溫容、威嚴並び整はつて、人をして、心情を解かねばならぬ樣の扱ひ振りです。其事業の成功も、此の夫人あつてのことと誠に感心いたしました。

右揭げし『歐米と婦人』の一篇は本會評議員三井すて子女史が、本年六月我國を出發、親しく歐山米水を踏まれ、到る處精緻の觀察を下されし、その感想錄の一部とも見るべきものにして、特に本誌の爲めに起稿されしものなり。女史は既に、さいつ頃歸朝せられ、小石川安藤坂の邸に切りに筆硯に親まれつゝあり。尚ほ女史は今後も時々本誌の爲めに所見をものさるゝ由なれば、諸姉妹、またの折を樂まれむことを……。

——（永持生しるす）——

## △貝加爾湖▽

此の頁にバイカル湖の寫眞が揭げて御座います。これも、曾記三井すて子女史の歐洲土産の一つであります。本誌の編輯にたづさはる一員が、特に同女史より乞ひ受けて、此處に揭げることになつたのです。

抑も此のバイカル湖は西伯利に御座いまして、亞細亞に於ける淡水湖（まみづの、みづうみ）の一番大きいもので御座います。長さは百六十里、幅八里より二十一里、その面積は一萬三千四百八十七方哩でありまして、湖の面は、毎年十二月より明年の五月まで氷結いたします。

扨その水は何處へはけるかと、申しますと、アンガラ河となり、イエニセイ河の水流を爲して居るので御座います。尚ほ支那の人は、その昔、此の湖を柏海若しくは北海と呼んで居つたようで御座いますが彼の蘇武牧羊の故地も、この湖畔だと云ふことです。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 海のあなた

### 米國婦人の長所（上）

佐藤迷羊

△米國婦人が世界の婦人社會に立つて如何なる働きをし、如何なる批評を受けて居るかは讀者も略ぼ知つて居らるゝ筈である。日本では西洋の婦人とさへ云へば、一概に同じものゝやうに思ふ人もあるが、英、米、佛、獨と國が變るにつれ其婦人社會の思想や特長がそれ〴〵違つて居る。殊に米國の女子は歐洲の女子に比較して、一層特色があるやうに思はる。短所もあるかはりに長所も多くある。

△合衆國といへば富を以て世界に冠たる國である。此の大國の人口が七千有餘萬とすれば其の半數は女子である。一國の文明や偉大なることとは、男子獨りの力で出來るものでないとすれば――少くも其半分は婦人の貢獻する所なりとせば、今日の強大な米國を組織する女子は、必ずや長所があるに違ひない。學ぶべき特長が多くあるに違ひない。爰には其二三を擧げて見たいと思ふ。

△日本の婦人中には、日本人は女子を尊敬せぬと嘆息する人がある。隨つて西洋の女子が男子に尊敬せらるゝのを羨む人が往々ある。けれども是れは事の本末を誤れる考へて、決して正當の考ではない。米國の女子が男子の尊敬を受けて居るのは事實であるが、彼等は尊敬を受くる丈の價値がある。彼等は男子と兩々此の活世界に立つて女子の本分を守り、男子の企て及ばざる天職を盡して居る。彼等は價値なくして、働きなくして、男子より尊敬せられて居ると思はゞ大なる誤りてある。優勝劣敗の世界には價値なきもの、尊敬せらるゝ筈はないのてあるから、米國婦人の今日の位置は彼等の價値と功績との結果てある。私の考へては今日の日本女子は決して男子の輕蔑を受けて居ない、男子より玩具視されて居ないと思ふ。けれども讀者の中に若し自分の位置を悲しむ婦人あらば、第一の務は日本の女子が男子の尊敬を受くる丈けの價値を發揮することてある。日本の男子は決して馬鹿ばかりて無い。微々たる日本國を提げて僅々三四十年の間に、世界第一流の國とした程に分別力ある日本男子は、必ずや、女子諸君を尊敬するに吝なる筈はない。米國婦人第一の特長は其の△高等の教育てある。人も知る如く米國は獨逸と並んて世界中最も教育の盛んな國てある。けれども男子中には、まだ多くの無學者、文盲漢がある。近頃の統計表を見ると、百人に八人位は必ず無教育の男子がある。然るに女子の無學文盲は極く〳〵少數て、殊に米國て生れた白人（黒奴は別として）の女子百人中には、僅々二人位しか讀み書きの出來ぬ女はない。此點から見ても、米國の女子が男子の尊敬を受ける理由が解る。以上は普通教育の場合だが、高等教育になると尚ほ不思議な現象が起つて來る。

DISAPPOINTED WOMAN.

Applicant—I want a divoroe from my hus'band.

Clerk—On what gronnds?

Applicant—He has deceived me.

Clerk—How is that?

Applicant—I married him to reform him and now I find that he has no bad habits.

△失望せる婦人▽

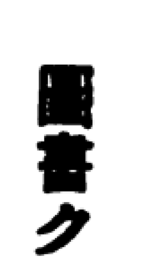
申込者「妾は所天から離縁致して貰ひたいと思ひます。」

書頭「何故て御座りまするな？」

申込者「所天は妾を騙しましたから」

書頭「そりや、何故て御座りまするな？」

申込者「妾は所天の惡癖を直さうと思ひまして結婚致しましたが、所天には惡癖も何にも無いことが判りましたから。」



## 圖書クラブ

今回から新たに此の一欄を設けることに致しました。と申しますのは、愛讀諸君も御承知の通り、今や日に月に幾百、幾千となく我が國に於いて發行さるゝ各種の有益圖書、これを一々手に取つて御覽になるのは仲々容易いことては御座いません。ちやに依つて今回新たに馳せ加はつた編輯者たる永持の考案から、特に愛讀諸君の御便利を計る爲めに此の一欄を新たに設け、數多く發行さるゝ書類のうちから多趣味有益なるものゝみを漸次此處に御紹介致さうと思ふので御座います。

そこて劈頭第一に御紹介しやうと思ふのは、恰度編輯者の座右に在る理學博士坪井正五郎氏の著述にかゝる『婦人と小兒』と云ふ書籍て御座います。御承知の如く同博士は我國唯一の人類學の大家として有名な御人て、この『婦人と小兒』と云ふ御著述も人類學的攻究叢書の一卷として京橋南鍋町隆文館から發行されたもので御座います。尚ほ同坪井博士には、編輯者から特に御寄稿を御依頼して置きました故、近き將來に於て同博士の御執筆にかゝる有益多趣味なお話が、更に本誌に掲げられ得べきことゝ信じて居ります。

次に『婦人と小兒』の一節諸人種製作の人形を紹介致します。

### △人形の話

理學博士　坪井正五郎

**玩弄人形とは如何なるものか**

一體人形とは何かと云ひますれば、人の形に作つたものと云ふのが廣い解釋て有ります。即ち銅像、石像、木像も皆人形に違ひ有りません。併し遊戲に關聯して云ふ時分の人形は子供の手て扱ふ事の出來る大さ、子供の手て捧げる事の出來る重さの物と制限するのが穩當てありませう。これて略ぼ玩弄人形の如何なる物なるかは明かてある樣てすが、古代の物や異人種の物の中には愈玩弄品て有るか、どうてあるか、唯だ見た計りては判斷し難い物が有ります、

**古代及び異人種間に於ける人形**

實に一見玩具品に違い無いと思ふ物ても、或ひは宗教上の偶像て有つたり、裝飾品て有つたり、大人の目を樂ませる置き物て有つたりする事が有ります。以下玩弄人形及び玩弄人形の樣に見える物に付ての記述を列ねて見ましよう。

**人形なき地方及び千島土人の人形**

世界諸地方何れに於ても人形が作られるかと云ひますに、決して左樣て有りません。ヲーストラリヤ土人の如きは全く之を作る念が無い。北海道本島アイヌは鳥獸の形を彫刻する技術を有しながら人形を作る事を好みません。千島土人は木の人形を作つて、之に頭巾を被らせ、衣服を着せ、靴さへも穿かせます。此人形は玩弄品て有ります。

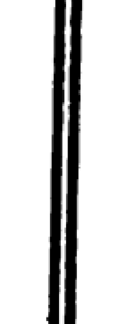
**日本の手遊び人形及臺灣土人の人形**

日本の手遊び人形には着物を着せる樣な持ち人形、雛の樣な置き人形、糸て操る樣な動かし人形の三類が有つて其原料も色々てす。臺灣土人の間に行はれて居るのは其本來の住地たる支那の物と同樣て、土人形或ひは陶人形の類て有ます。支那には樣々な人形が有ります。子供の手遊びとする類も有れば、大人の置き物とする類も有る。

**支那シヤム印度等に於ける人形**

シヤムには縫ひ合はせた人形も有るし、着色土製の精巧な置人形も有る。印度には縫ひ合はせの人形も有り、又樣々の風俗を示した着色土人形も有ります。縫ひ合はせの方は手遊び、着色の方は置きものに用ひます。

次號の本欄には文學博士福來友吉氏の著述されました『心理學講義』と云ふ大著述の一節を掲げることに致します。



## 調の栞

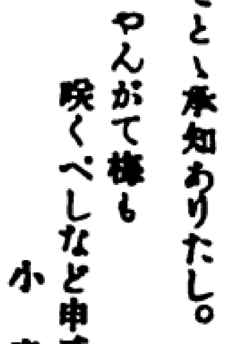
### 女子

△男子は乾の剛を稟け、女子は坤の順に配す。△賢后は女中の堯舜と稱し、烈女は女中の丈夫と稱す。△閨秀と曰ひ、淑媛と曰ふは、皆な賢女を稱するなり。△閨範と曰ひ、懿德と曰ふは、並に佳人を美むるなり。△婦は中饋を主つて飲食を烹治するの名なり。△女子歸寧するは家に回つて親を省るの謂なり。△何をか三從と謂ふ。父に從ひ、夫に從ひ、子に從ふことこれなり。△何をか四德と謂ふ婦德、婦言、婦工、婦容これなり。△蘭蕙の質、柳絮の才は皆な女人の美譽なり。△氷雪の心、栢舟の操は悉く孀婦の淸聲なり。△女貌の妖嬈なるを尤物と謂ひ、婦容の嬌媚なるは實に城を傾くべし。――（編輯者附記す。この欄に掲げしは『故事成語考』の一節なり。近頃世に文を弄ぶ人、いと多なれど、漢字の使用法正しからぬが多く、慨はしきことなるが故に、今號以後折節この一欄を設くることゝなせり。編者の婆心、愛讀諸姉の參考ともなるを得ば幸甚。――尚ほまた次の餘白には、これまた諸氏の御參考までに家庭百科辭彙その他により、諸氏作文上の御心得ともなるべきものを掲ぐ。）

## 婦人百科辭彙

### △大奧▽

德川氏の營中には、御表、中奧、奧及び大奧なる四樣の區別ありて、御表及び中奧にては一般の規式を行ひ奧は將軍の平常政事を聽く處なり、故に奧には側衆、小姓衆及び小納戸衆等これに侍し全く婦女を近づけざりしかど、大奧には專ら婦人のみ住居し、將軍の休息も又は宿泊せらるゝ處にして、側衆小姓たりとも出入するを得ざる定めなりき。但しこゝに掲げつるは將軍家大奧のみのことゝ承知ありたし。



やんがて梅も咲くべしなど申す小春かな　あつか



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 家庭簡易 西洋料理法

私立英語専門櫻井女塾長 櫻井ちか子

NOODLE SOUP.

Add noodles to beef or any other soup after straining; they will cook in fifteen or twenty minutes, and are prepared in the following manner: To one egg add as much sifted flour as it will absorb, with a little salt; roll out as thin as a wafer, dredge very lightly with flour, roll over and over into a large roll, slice from the ends, shake out the strips loosely and drop into the soup.

▲ニウドルスウプ▼

△製法▽ 先づ玉子一個を鉢の中に割り込み、能く攪き混ぜ、其中へメリケン粉をよき程と食鹽少し入れて捏ね板の上に粉を振り置き、其上にて極々薄く延ばし、恰度溫飩を切る樣にたゝみ、細く切りて、既に味の付けてある肉汁の煮立つてをる中へ少しづゝ固まらぬ樣にばらばらと入れて、十五分間程煮るのです。

△注意▽ 其玉子一個にて出來ただけを、凡そ十人前位の肉汁の中へ入れるのです。餘り多く入れると、肉汁の味を惡くします。

△肉汁の拵へ方▽ も序に御話し致します。先づ牛肉又は鷄肉一斤(又は骨)と水約六合位と玉葱と、人參少々づゝを土鍋又は塗釉鍋にて蓋をし、とろ火にて五六時間煮て、篩で漉し、滓を去り、後に鹽と胡椒を入れて、味を付けますのです

Every wise woman buildeth her hous: but the foolish plucketh it down with her hands.

智慧ある婦はその家をたて、愚なる婦はおのれの手をもて之を毀つ。

——(ソロモン)——

## 煤掃の御參考

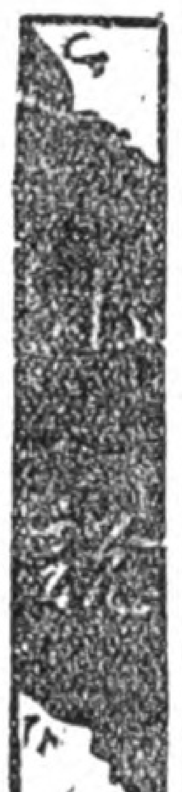
(疊を綺麗にする仕方いろ〳〵)

△正月も近きたれば、煤掃など、家の內を綺麗にする必要あり、されば茲に疊を綺麗にする仕方の手輕きもの一つ二つを申すべし。

○疊の垢を落す には、橙を酸を搾る時の如に二つ切にし、是れにてよく〳〵擦るべし。擦る中に垢の落ち去ることの見ゆるものなり。垢の落ちたるを見て、其後清水にて拭ひ置くべし。酸を搾り取りたる後のものにても、多少の效力あり利用せらるべし。

○疊に洋墨の付 たるを落すには、職工用鹽酸を十倍の清水に溶したるものにて拭ひ、尚其跡をよく水雜巾にて拭きおくべし。

○疊の油を落す には、滑石粉を其汚點に厚く振りかけおき、其上に新聞紙など吸ひ取らすべき紙を置きて、重き壓をかけ置くべし。又覇王樹をかきとりて、山葵卸にておろし、其を汚點の上に置き、二三時間を經て雜巾にて拭きとるもよし以上はともし油即ち種油のかゝりたる時の仕方なるが此外に石油のかゝりたる時、は之を燃發せしむるを上策とす。されば其汚點に紙を置きて、其上より熱灰をかけ、或は新聞紙などあてゝ其上より熨斗、焙鏝などかくるも道理にかなひたる仕方なるべし。



## 寄宿人 (一)

田口掬汀

歲暮に近い或日の夜、自分は上野停車場の一隅に、呆然と立つて居た。鄕里から上京の寄宿人——別語て云へば居候を出迎へるので。

乘降場の亞鉛屋根に、時雨の注ぐ淋しい音聞いて、孑然と彳んでから、既う三十分餘りになつた。八時十分着と云ふので、正確に時間を計つて來たが、聞けば奧羽線名物の延着で、小一時間は後れるだらうと云ふ事だ。

延着！と聞いて、忌々しさに舌皷したが、夫も故障の多い奧州路の例だ、と思ひ反すと、淋しい旅行する友——即ち寄宿人——の身上に心が走る。荒涼たる道中が思ひ遣られる。板谷峠には雪が積んで居るさうな、あれを越して岩代に出て、那須野ケ原を搖られて來る、乘客の少ない三等室では、眠るどころか寒さに齒の根も合はぬだらう、など〻彼から是へと考へ遣ると、零落人の哀れな姿が、もう目の前に見えるやうだ。

一向取留のない思ひに耽つて、乘降場を眺めて居ると、屏風坂邊に機關車の燈火が見え出した。此方には驛員が走り廻る、人車や荷車の音が聞え出す、停車場內外のざわつくに伴れて、自分の心臟も烈しく鼓動する。

と見る間に、列車は凄じい轟きして、乘降場に横はつた。豆のやうな火のチラチラする中に、多くの人影が零れ落ると、下駄の音、靴の響き、高い亞鉛屋根に反響して、改札口は大浪の打合ふ混雜となる。

自分は改札口の柵に身を寄せて、出て來る面に眼を注いだ。と群集の中から『高井君！』と聲掛けたは、疑ひもなく友の淺見敬三である。

『おゝ淺見君！』と自分が斯う叫んだ時は、彼と向合つて立つて居た、が瞥と見た面相の窶れやう、薄着な姿の見窄らしさ、自分は頓に二の句が繼げなかつた。

『兎に角出よう』と自分は兎も角言つた、『荷物は如何した？』

『持つて居ます』と彼は手にせる小さな行李を上げて見せる。

『君、未だ飯前だらう』

『未だゞけれど……何有飯なんか食はなくても可いんです』

『仙人ぢやあるまいし、眞可霧を吸つて生きとる譯にも行かんだらう、ハヽヽ、まア來給へ、何處か其邊で食つて行かう』

て、洋食店で一盞やらうと云ふので、並び立つて三橋へ步を移したが、自分は案外な彼の姿に胸衝かれて、話も多くしなかつた。街燈の光りにさへ垢の見える雙子の綿入、黑ずんだ天竺木綿の兵兒帶、鳥打帽を食み出る髮の、耳を蔽ふまでに伸びた面相、田舍者の境を通り越して、場末を彷徨く似而非壯士を見るやうだ。あゝ之が俊才と呼ばれた淺見敬三の成れの果か、思へば既う七年になるが、彼の當時の淺見は、私立某大學の制服着けて、夏冬の休暇に肩で風切つて來たものだ、所謂才氣煥發、談論風生と云ふ風で、自分などは木の葉のやうに捲し立てられた。如何な傑物になるだらう？とは彼を畏敬する者の、一樣に放てる聲であつた。

それが如何した譯か、學校を止めて歸鄕した、夫から登記役場の書記になつたと聞いて居たが、七年目で自分の寄宿人となる……世の中は妙なものだ、測られぬは人の身の上である。

山下通りを辿る間、此樣な事を考へて居たが、程なく目指す洋食店の前に着く

『君此處だよ』と自分は傘を疊んで、『さア入り給へ』

『ちや御馳走になりますかな』と淺見は咽喉を鳴らして言つた。

## △成美冬の句△

猿曳の小春きげんに出にけり
大名の紅葉踏み行く小春かな
うしろには松の上野をふゆ籠
人ゆけば聽てしぐるゝ野中哉
宵の中上野淺草と時雨けり
人は寢て鼠の顏にもるしぐれ
明るまで人はよく寢ておちばかな
人さらに狸のあとを踏む落葉
鳥めらが來ては屋根ふむ葉落哉
花にうかれ、月なもてあそびしも
すみだ川木の葉がちにもなりにけり
はつ雪や灰にかいたる梅のはな
から家とおもへば烟るゆきの暮
ゆきの日は腹たつ人も來ざりけり
師走にも雨夜はありて雁の啼

△舊作▽

當てにならぬことを師走の夕かな

▲廣告▼

化粧法と朝日新聞

昨日發行朝日新聞は「昨今の化粧法」と題して在來の化粧法即ち白粉を無雜作に顏に塗り付くるが如き左官式化粧法は頗る不自然にして幼稚なる者なりと論じクリームとプードル(粉白粉)は舊式化粧法を打破す可き唯一の新化粧品にして最も完全且つ進步したる者なりと云へり

此の意義に於て弊店は新製發賣したるクリームローヤル及びプードルローヤルの最も誇る可き逸品として江湖に推薦するの光榮を有する者なり

定價(クリーム 五十錢 プードル 五十錢)

發賣元 東京銀座 佐々木商店



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 傳記

## 登美宮（下）（第百三十六號）

筑山

△弘化四年五月▽　烈公は謹愼を命ぜられた。それは烈公の英明を忌むものが幕閣の間に多い。ことに大奥に於ては、烈公のなされ方を悦ばない。烈公が藤田東湖や、今井惟典や、田丸直諒などを登庸せられて、淫祠を毀ち、佛寺の巨鐘を鑄潰して大砲を作るなどといふことは、結城寅壽等の最も忌み嫌ふ所であつて特に領內の僧侶などは大不平である。そこで彼等は相結托して、上野の僧より大奥へ手を付けて、烈公異圖ありと讒言した。烈公は御不審を被つて、駒込の邸に幽せらるゝことゝなつた。そこで、長男一郞麿御後を繼がれた。順公慶篤と申さるゝのは此御方で、十五代將軍慶喜公の同母の兄上である。この時、藤田派のものは皆御咎めを被むり、結城派が出て權要の位地を占めることゝなつた。

彼等は如何にしても幕府の意を迎へ樣といふ考へて、烈公御謹愼中の御動靜を、時の閣老阿部伊勢守正弘に報じた。宮はこの事を聞し召されて、大いに怒られ、親しき御母子の間のことではあるが、非常の御見幕にて、慶篤侯と慶喜公とを召され、論語に『子は父の爲めに隱し、父は子の爲めに隱す。直きと其中に在り』といふ文句を引かれて、慶篤侯の御不心得を面責せられた。諸有司も、これを承つて、縮み上つて恐れ入つたと申すことである。

△ペルリ來る▽　水戸へ內敕が降る、伊井が斬られる、天下は大騷動となつた。水戸は從來黨爭の甚だしい所であるのに、天下の大勢につれて、愈々八ヶ間しくなつて來る。其黨爭の眞最中に、烈公は萬延元年の九月四日に薨去せられた。

これより宮は薙髮して貞芳院と稱せられ大事を輿り聞かれた。即ち、時に群臣をば召し出して、彼の所謂

△垂簾の政を執られた▽　何しろ御見識は一頭地を抽かれたる上に、學問は和漢を兼ね、識見深く坐したからして、先代の遺老共敬長して、元祐無黨の風ありと稱した。所謂正黨も鎭家も、奸黨といはれたものゝ、皆宮の前には兎角の辭を返へすものがなく、其德を稱へたと申すことである。

慶喜公が、一橋刑部と稱せられて、將軍後見職で京都に御出の頃、御連枝の內に不幸があつた。そこで、御所向の出仕も忌引せねばならぬのであるが、何しろ、其時分は攘夷の御詔敕を將軍家茂公に給ひ、親征を仰せ出さるといふ場合であるから、一日も慶喜公も御引籠りといふ譯に行かない。何うすれば好いかといふてとに就き、宮に御思召を伺つたところ、宮には以ての外の御顏色で、さて〳〵七郞麿もたわけなれば、付いて居る者も何といふ沒理漢であらう。征夷大將軍には朝廷より兵馬の大權を御委任になつて居ることであれば、至尊に代り奉りて征伐の任に當らなければならぬは、今更申す迄もないことである。其後見職なるものが、今天子親征を仰せ出さるゝといふ時、不幸があるから戰爭を持つて吳れいと申した所で、相手方が待つて吳れるかまあ考へて見いと仰せられた。これには誰も一言もなかつたと申すことである。

△礮煙彈雨の下▽　に宮が平然たりし美談がある。夫れは、朝比奈彌太郞、市川三左衞門等が水戸城を守つて居る所へ、水府の支藩松平大炊頭賴德が、常野鎭撫の命を受けて（此時、武田耕雲齋、藤田小四郞等太平山に屯す。實に元治元年八月十日の事なり。）水戸城へ入らむとする時に、朝比奈派のものは拒て入れず、武田耕雲齋等兵力を以て城を奪はむと欲し城下は忽ち戰塵の蔽ふ所となり、砲彈の雹、手に取る如く聞え、果ては城內、宮の御座所近くへ彈丸が飛んで來て、天井を打ち拔くといふ有樣。女中輩は悲鳴を擧げて右往左往に逃げ惑ふ中に、宮は整然として端座し給ひ、時々表へ使を出して戰況を聞召され、何かと御指圖遊ばさるゝに、所謂一絲亂れざる御態度。實に何共申上げ樣のない、恐れ多い事であると、其時、城內に居た梶某の記錄に見えて居ります。

△明治維新後▽　宮は小梅の邸に移られて、靜かに餘命を樂しんで居られましたが、去る廿五年の一月感冒に罹らせられしが原因にて同じ月の廿七日、遂に逝去せられました。享年九十歲。事九重に聞ゆるや、兩陛下より弔祭料として金五百圓を下賜相成りました。【をはり】

△俳句　內藤鳴雪大人選

天　町一つはなれて旅の月寒し　長崎　三隅　靜
地　足跡の憎き鷄や屋根の霜　東京　栗原　花園
人　靑樓に戸をさす音や冬の月　相州　水野　淑子

▲

霜の夜や昔戀しき物語　石川　小坂　夏
ちごの乳母なるが觸る小春哉　岡山　清水　梅子
榾の火に主會あむ小家哉　京都　山本千代子
茶の花や香焚く跣の朝まだき　山梨　廣瀬　鶴子
濡れて立つ石の佛や冬の雨　東京　栗原　花園
斧の音に鳥さわがしき冬木立　山梨　廣瀬　鶴子
牛の背に夕日の霽き家路哉　靑森　吉田　安子
傘さして雨に孫の菊見かな　靑森　田島　愛子
朝霜の籬垣さむき落葉哉　東京　肥塚きみ子
住みかへて御室の風や冬を待つ　宮城　山形　幸子
納豆汁南瓜きざみ投げにけり　宮城　山形ふみ子
稻代木に羽干す鴫の夕日哉　三重　西山ひさゑ

（以下第五段へつゞく）

# ゆかりの咲

## 信貴山紀行（上）

才子

暑からず寒からず――廿三町の山道和州の平野――つくろはぬ庭――おひしげる木の間

くりかへす、こよみの尾ものこりすくなき霜月の朔日、母上と共に信貴山に詣づ湊町より汽車にのり、十時過ぐる頃王寺につきぬ。

秋晴一抹拭ふがごとしとは、げに今日の如き日和をやいふらむ。暑からず、寒からず、風やはらかに水はすみ、稻はみのり、菊はかをり、平和の外には一點のちりもなき田園の風趣に、おのづから心のひろうなるを覺えつ。

四五町ゆきたる處に「ふもとや」といふ茶屋あり。そこにて草鞋を求め、一碗の昆布湯に咽喉をうるほして、廿三町の山道にさしかゝりぬ。寅の日とて參詣者殊に多く、老たるもの、若きもの、後になり前になりては、譯もなき雜談に興じつつ行く。

さしてけはしき道にもあらねど、かごにて行く人もあり、一帶に松の木多くしてうら枯れたるすゝきの下には、なほ秋草のいろ〳〵咲匂へる、いと風情あり。つゞじの木もあまたあり。やがて一町目の立石ある處までのぼりつきぬ。母上は、いつも此處にて休らひ給ふよし、今日もまた、こゝにて休ませんと仰せらるゝほど、はやくも茶店の媼いて來りて、愛嬌こぼるゝばかりに、いざ〳〵とおのれひとり物いひて迎へ入れぬ。

面白き人よと思ひつゝ、媼のすゝむるにまかせ、柹などむきてしばし休らふ。此處よりは見晴しいとよろし。おだやかなる山もてかこまれたる和州の平野は、あくまでもうらゝかにて渡りたる秋の日をうけて、こがねの波をたゞよはす。家のうしろを見れば、菊の花あり。とりどりの色美はしう咲みだれたる中に、白きと淡紅なるが、殊になつかしう覺えて

　つくろはぬ庭に咲てもおのづから
　　氣高くにほふしら菊の花

かへるさにまたよらんとて、此處を出づ此のあたり松茸もいづるよし、媼のほこりかにいひしがをかし、など云ひつゝ、後を見かへれば計らずも知り人の登り來るにあひぬ。思はぬところにて、よき道づれ得たるものかなと、うち連れ立ち、喜びて行くほど、いつしか、本堂に近づきぬ。

紅葉は、いまだ早からんと思ひゐけるに寺內の楓樹、いづれもそめわたして、はや見頃にちかき詠めなり。

朱ぬりの多寶塔は高くそびえて、おひしげる木の間より、鐘樓のほの見ゆるなどゑのやうなり。まづ、山の井の水に手をきよめて、毘沙門天に詣づ。

△應募俳句（第三段よりつゞく）▽

頭巾がまだ來ぬ檣や霜白し　紀伊　西山　かず
落葉して小窓に富士の山近し　東京　中山　由子
風に何處まで轉ぶ帽子かな　三重　莊司みや子
小春や村の長者の年わすれ　山城　古川よね子
咲き殘る菊にわりなき落葉哉　同上　同　人
綿帽子十夜の辻に別れけり　紀伊　西上　ひさ
捗らぬ針のはこびや小夜千鳥　東京　中阪富士子
飼犬の戸を出て吠る霜夜かな　三重　莊司　友江
冬の夜や子に物着せる風の音　同上　莊司りい子

第七十回文苑募集

| | | | 締切 | 發表 |
|---|---|---|---|---|
| 和歌 | 梅 | 大口鯛二選 | 十二月廿日 | 一月一日 |
| 俳句 | 冬季雜題 | 內藤鳴雪選 | | |
| 短文 | 元日 | 編輯局選 | | |
| 新體詩 | 新春の感 | 同人選 | | |



Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 紅葉（應募新躰詩）

青森　吉田安子

秋の時雨をたてぬきに
よるよきり／＼きり／＼す
立田の姫の御手はしる
梭をころ／＼こうろぎを
むせび鳴くよと誰が云ひし
機をり蟲の業見れば
心ときめく紅に
峯の幾重もほんのりと
あゝ朝紅葉、夕紅葉
秋を寒がる女子も
憂きを忘れて暫時眺むる

## 和歌　時雨　大口鯛二大人選

本號にて發表すべき歌題、時雨なりしを、誤りてひぐれと誤植せりしを、校正粗漏にて其儘發刊し、讀者たちを惑はしめしを、誠に赤面にたへず。選者へも詫びて、時雨日暮兩樣の選拔を受け、茲に同時にかゝぐることとはしつ。詞藻受持記者しるす。

### 時雨の部

甲　東京　中隈富士子

入日さす紅葉の山にうき雲の
一むら見えてしくれふるなり

評曰　實景々々

乙　大阪　大谷高子

しくれふるさとをとひこしさるひきの
せなの子さるのさむけなるかな

評曰　時雨どきの小猿げにさむげになん

入選

洗ひ絹ほすひまもなし此頃はたえず時雨の晴れ曇りして　青森　大橋八佐子

もみち葉の錦と散りし其上にしぐれふるなり山かげの庭　東京　土師利根子

紅葉見にゆかしゝ母はいかにかとこゝろにかゝる村しくれかな　埼玉　水野淑子

たをらんと菊の垣根に立よれは重れてぬらすむらしぐれ哉　青森　大橋玉子

ちりつもる落葉の上に時雨していとゝ淋しき山陰のいほ　同　大橋信子

くもるかと思へは晴れて月かけのこなたの空はしくれしにけり　同　大橋かね子

ふもと田にひとり鳴子の音寒くかせのすかたに降る時雨かな　岡山　武田須磨子

そま人のうすき衣にはら／＼とかゝる時雨そわびしかりける　横濱　鈴木まつ子

### 日暮の部

甲　京都　花輪よしの子

かへるてふ友をとゞめてかたるまに
せはしく冬の日はくれんとす

評曰　四五句短日のさまよくいはれたり

乙　山口　末田貞節子

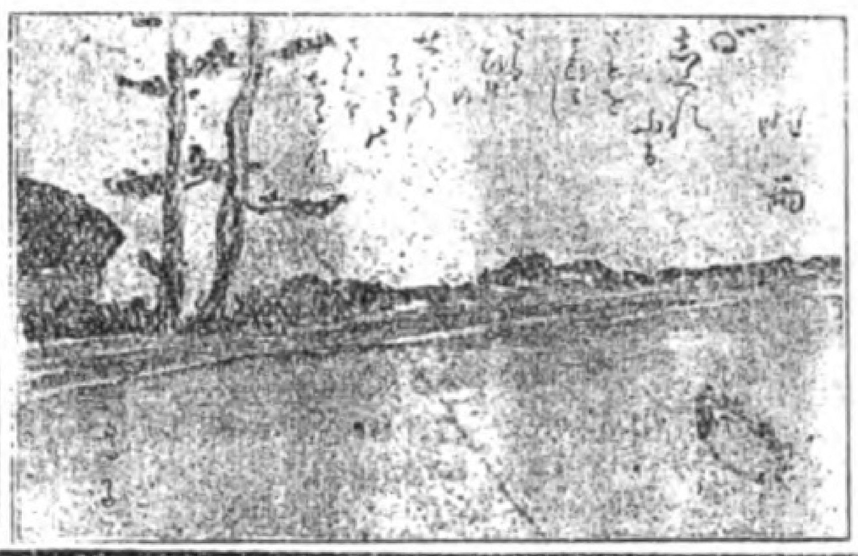
ゆふげたく煙の末に見ゆるかな
ねぐらにいそく烏三つ四つ

評曰　晩景畫けるが如し

△後影（短文）

東京　杉中春子

秋の日足の短かきをかこちてあかぬ別れの袂を家近き坂の邊まで連れし我は頓て夕靄に包れ行く友の後姿を見えずなるまて見送りぬ友は良き縁得て近き程歸んとするなりあはれ結婚とは世のなべての人の思ふ如き樂しきものか而も友の心は希望に充ちて滿てなるり。あはれ。



ひくれかもしくれかもとて思ひつゝあゆみしをればふるしぐれかな　堺市　全田久子

評曰　題の誤植に迷へる心をやがて歌にせられたるいとをかし

ゆふばえの空ぞしつけき神無月あすも小春の日和なるべし　群馬　伏島たき子

ひと汽車は見合せつれどむらしぐれまだふりやまてひはくれんとす　堺市　全田つる子

かへりこんわか子まつらん孫おひてくれゆく門にたてる嫗は　東京　杉中春子

枯尾花さわく山路に日はくれぬ里ある方やいつちなるらん　東京　清岡忍子

午ひきてうなゐすぎゆく森陰にたそがれちかく百舌のこゑする　岡山　菅昌子

入選

ふたつみつともし火見えてをちかたの樹だちにひゞく山寺の鐘　同　山崎露子

いりあひのかねのひゞきに日はおちてしくれにくるゝ山もとの里　山口　末田竹子

あきのゝにあきつおふ子はかへりこずゆふきりたちて日はくれんとす　岡山　西村長子

せのきみもこらもまつらん友とひてかへさいそく夕くれの道　大阪　十合貴美子

かへりくる白帆のかけもうつるまであまのとまやにゆふ日てるなり　福岡　松野操子

沖遠く夕日はおちて一入にくれかたさびしうらのとまやは　鹿兒島　藤野錠子

日くるれとかへるそなしき箕面山みねのもみちにこゝろのこりて　大阪　佐野眞子

畑をへてかへる人まつ夕くれのせはしき母をちこはしらすや　德島　島野文子


羽根蒲團
毛布膝掛
小兒帽子
リボン造花
手袋沓下
西洋小間物
新形ボアー。マフ絹ショール。毛布

東京牛込神樂坂下
朝日堂
電話番町一六九九

本館は本邦に於て勸工場と稱する商品陳列場の鼻祖にして明治十一年東京府廳の創設なり
本館は本年十月中改築東京勸業館と改稱し商工業者の發展を期する目的にて出品改良をなす
本館は東京市内の著名なる商工業者の出品を陳列し物品の選擇は勿論價格の不當なき樣極めて廉價を以て即賣せり
本館は購買者の利便を謀り特に各府縣の物產を廣く蒐集して低廉に即賣せり
芝公園内元勸工場（電話新橋一四五三番）
毎日開館　縱覽無料　市内配達無料
東京勸業館

最新流行
御婦人小間物
季節向陸續着
本店　東京神田須田町十
三ツ井屋
電話本局二〇七六番
支店　神田神保町東明館内
新橋ぎわ博品館内
芝公園勸業館内
商品目錄御申越次第送呈

歲暮賣出し
十二月五日ヨリ
歲暮、年玉御贈答用品
敕題撲樣御半衿、帛紗類
寄せぎれ、見切反物
呉服切手は美麗高尚にして歲暮、年玉の御贈答用に至極適當に有之候
東京市日本橋區通旅籠町
下村呉服店




Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

美文

## 紅葉花にまさる

四屋保子

「うら〳〵とのどけき春の心より、匂ひそめたるやまざくらかな」げにや一年のうち、花といふ花はさけど、朝日に匂ふ櫻ばかりめでたき花の又あらめや。雨はれて朝日のどやかにさしわたる庭に、つゆをふくみてほころびそめたらんけしきは、たぐひもなう、月かげおぼろ〳〵とかすめる夜花さきみてる川堤など、たどりゆくに、二ひら三ひら袖にちりくるなどいひしらぬこゝちぞする。今を盛とさき匂へる下かげに、思ふ友どちまとゐのむしろひらかましかば、げに花をし見ればものおもひもなしとこそ口すさぶべけれ。

千草の花うつろひゆく庭の日毎、雨にさへくたさるゝわびしさに、ながめ暮しゝゆふべ、めづらしう入日かゞやきたる向ひの山に、初紅葉を見いでしより、日にそへて色ふかうなりゆき、錦もて包まれたらん如き山里のけしきよ、いかなるあて人にても、都にてかゝる築山はえられ給はざらんかし。庭の松が枝にからめる蔦の紅葉は、繪にもかゝまほしう、薄く濃くそめなしたるかへるでの枝は、友仙の模樣にも染めて見まほしうこそ。

げに春山萬花之艶、秋山千葉之彩、いづれかまさり。いづれかおとらん、さるをかたくなるおのが心にひき定めんも、こゝろぐるしや。うきよの外のところかと、たのしみてこしものを、花のみやこの花さく頃、おかされたりしいたつきに、身は埋木となりはてゝ、幾度か花ちり花は匂へども、心のどかに見ん春もなし。あはれ、おのがためには、なかなかに、花は物をば思はするよ。

めづらしうとりいでゝよめる書の中よりこぼれいでたる紅葉二葉三葉いと古びたるはいつのなりけんと見れば、包みたりし紙とおぼしきに、「嵐山いま一度はゆきてみん、となせの瀧に紅葉ちるころ」とあり。あなゝつかしや、こは八年の昔、叔母上にともなはれて、嵐山に遊び、夕日にもゆる滿山のもみぢに向ひたりし折のすさびなり思ふことなかりし昔にもあるかな、紅葉のにしき著ぬべきはえはなき身も、今一度ゆきて見まくほし、西のみやこのもみぢばのかげに。

　花よりもゆかしかりけり思ふこと
　なくて遊びし紅葉のかげ

## 懸慕短文

福島　横川千賀子

燈火の光りにだに、文も讀み得ん。まして天つ日の光りには、人も草も生ひ立つなる。

あしたの霜と輝く光り、夕雲染むる落日の光り、其麗しさはさる事なれど、それにもまして尊きは、大君の惠みの光りにこそ。

我等は日毎此みひかりにあひて、安らけく、此の世を送るぞ有難き。


THE GEM

ゼム

衛生家必携　懐中良藥

冬季の衛生

冬は寒氣の爲め運動不足し易く爲めに精神の不快を來たし食慾又減退す此時期にゼムを用ふれば精神常に爽かにして食味最も佳なり。

冬は火に親むと多き爲め逆上眩暈頭痛に罹り易し此時期にゼムを用ふれは是等の不快を豫防し得て頭腦最も明快なり。

冬は室内に蟄居して酒煙草に無聊を慰すると多き爲め動もすれば惡醉に苦むとあり此期節にゼムを用ふれは酒煙草の味を倍して其害を防ぎ且音聲を美くす。

殊にゼムの馥郁する芳香最人をして敬愛の念を生せしむるが故に最も交際界の婦人方に愛用せらる

定價 七十五粒入十錢 百六十粒入廿錢 四百卅粒五十錢 九百粒入壹圓 容器入廿錢

東京馬喰町二丁目 愛國堂 山崎三榮郎
大阪高麗橋二丁目 山崎兄弟商會



東京勸業博覽會三等賞受領

▲正定價引なし

營業品目〜特許竈各種●特許据風呂●特許テンピ●特許水焜呂●實用暖爐●鍋釜品々

日本橋區蠣殼町二丁目十五番地
神田泉町通松永町十八（電浪一一七七番）

名和本支店



醫院案內（其二）

院長　醫學博士　榊順次郎（婦人科產科 每日午前診察）
副　醫學士　久保德太郎（婦人科的外科 外國留學中）
副　醫學士　田代謹二（婦人生殖器病 泌尿器病及內科 一般火木土午後診察）

●施診火木土自午後一時至二時

婦人科產科　榊病院

麴町區三番町三三（電話番町三九五）



耳鼻咽喉病診察

淺草向柳原町一丁目二番地左衛門橋通り

中村醫院



肋膜炎、腎臟炎、

菅能內科醫院

體格檢査（官公私立學校及檢定受驗者）

神田錦町正則英語學校前（電本二二五六）



空前の大賣出し

景品參萬圓の大福引　來十四より三十一日迄

甲種（豫定籤數二萬本）

| | | |
|---|---|---|
| 一等 | 金百圓金時計（其他物品） | 八箇 |
| 二等 | 五十圓總桐三重簞笥（全） | 八箇 |
| 三等 | 二十五圓（金額相當品） | 廿四個 |
| 四等 | 十五圓（全） | 四十個 |
| 五等 | 拾圓（全） | 五十六個 |
| 六等 | 七圓半（全） | 八十個 |
| 七等 | 五圓（全） | 百廿個 |
| 八等 | 貳圓半券 | 三百廿枚 |
| 九等 | 一圓五十錢券 | 八百枚 |
| 十等 | 一圓券 | 千百三十六枚 |
| 十一等 | 五十錢券 | 一萬八千百八枚 |

乙種（豫定籤數十萬本）

| | | |
|---|---|---|
| 一等 | 二十圓總桐重簞笥（其他物品） | 四十個 |
| 二等 | 拾圓總桐三重簞笥（其他物品） | 四十個 |
| 三等 | 五圓（金額相當品） | 百廿個 |
| 四等 | 三圓（全） | 貳百個 |
| 五等 | 二圓券（全） | 二百八十枚 |
| 六等 | 一圓半券（全） | 四百枚 |
| 七等 | 一圓券（全） | 六百枚 |
| 八等 | 五十錢券（全） | 千六百枚 |
| 九等 | 卅錢券（全） | 四千枚 |
| 十等 | 二十錢券（全） | 五千六百八十枚 |
| 十一等 | 十錢券（全） | 八萬七千四十枚 |

但し雨天順延の事

○福引券ハ弊館內同一商店ニ於テ一圓以上ノ御買物ニ對シ一枚以上一圓ヲ增ス每ニ福引券一枚宛增呈仕候○甲種ノ籤ハ福引券五枚ニ對シ一本乙種ハ四枚以上一枚迄御持參ノ方御抽籤ノコ○甲乙種共貳千五百本ヲ一組トシ前記ノ景品ヲ平均ニ割當テ抽籤セシム

東京新橋　帝國博品館



おむなや

移轉披露　賣出し廣告

拜啓從來人形町通住吉町に營業罷在候處今回市區改正の爲向前に移轉仕候に付其御披露として取揃へ賣出しを兼平素御取引立に預り候御禮として左記福引券甲乙丙種の內御買上げの金高により進呈仕候

十二月廿五日 廿六日 廿七日

めりんす友禪 其他反物一式

福引券內譯

甲種參千本（五圓以上）

| | | |
|---|---|---|
| 壹等 | （五拾圓商品切手一枚） | 貳本 |
| 貳等 | （拾圓全） | 五本 |
| 參等 | （參圓全） | 廿本 |
| 四等 | （五拾錢全） | 五拾本 |
| 五等 | （拾五錢價格品） | 貳千九百廿參本 |

乙種參千本（壹圓以上）

| | | |
|---|---|---|
| 壹等 | （參拾圓商品切手一枚） | 貳本 |
| 貳等 | （五圓全） | 五本 |
| 參等 | （壹圓全） | 廿本 |
| 四等 | （參拾錢全） | 四百本 |
| 五等 | （拾錢價格品） | 貳千五百七拾參本 |

尚一壹圓を增す每に福引券一本宛增呈仕候也
些少の御買上げにても粗景呈上

東京人形町通よし町

（花）印　赤のれん　おむなや

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

可驚一分間の高等髪あらひ
東京衞生試驗所毛髪無害御試驗濟

# 女俳優 川上貞奴 佛國みやげ

日本唯一 高等髪(かみ)あらひ

# マダム

特色

少しも毛を惡くせず毛を切らず毛をフツクリとして艶を出し東髪、下げ髪には衣類をよごさず僅に一二分間殊に微温湯で洗へます論より證據皆さん洗つて御試しください

鑛金 入凡十二回洗料金廿五錢送賃四錢 凡八回分洗料金拾五錢全國送賃四錢

定價 試用貳度分洗料金六錢送料二錢

東京外神田御成道田代町電話下谷一二三九九

マダム日本一手販賣 地球堂 田中丹治

東京大阪、名古屋及び全國各小間物店賣藥店に賣捌あり

---

院長診察月、水、金、午前、松田醫學士診察火、土午前、窮者施診火木午前入院診斷後隨時應需

松田、林、兩副長ハ目下當院ニ在勤、

電話本局八八八(病院用) 八九八(私宅用)

東京神田區駿河臺鈴木町二番地(御茶水橋畔)

# 東洋內科醫院

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣相州高座郡茅ヶ崎村濱(停車場所在)

# 南湖院

河野、中村、兩副長は目下當院に在勤

院長診察土曜日午後○同時窮者施診

副長診察月、火、水、木、金、土、午前

○入院診斷隨時應需

---

日本一の料理書出づ

宮內省大膳庖士 赤堀吉松 日本女子大學敎授 赤堀峯吉 東京女學館敎授 赤堀菊子 合著

絕世の珍本

# 日本料理法

定價七拾錢 郵稅八錢 但郵券代用一割增

◎我料理界の絕倫赤堀家の大家三先生が絕大の苦心に成る眞に是古今獨步

◎同家累代の秘傳を悉く發表最も手近の材料を以て最美味の調理を敎へ廣く一般家庭に適す

◎料理方法五百餘種四季野菜肉類海草魚貝乾物一切網羅し圖解入說明完全無缺

好評 「弦齋夫人の料理談」石塚月亭君編 價六拾錢郵稅八錢(一月より十二月に至る季節料理)

「家庭菓子製法」累代の菓子製造家梅田鐫菓君著 價五拾錢郵稅六錢(二百餘種の和洋菓子製法を親切說明)

東京京橋南紺屋町 實業之日本社 賣捌各地

---

# 實用新案特許

最新發明 磁石應用安全携帶針箱

該器ハ家庭必要有効無期ノ發明品ニテ各學校及ビ各軍隊等ニ於テ實驗上大賛賞ヲ博シタル嶄新發明ノ携帶針箱ニシテ其構造ハ極メテ堅牢且高尙優美廉價ニシテ體裁好キ要具ナレバ婦人用各學校等ノ女子陸海軍軍人及ビ旅行用等ニハ至極便利ナル新發明ノ良具ナリ

本品ノ特色

定價 特製一個(三十錢) 甲一個(貳拾五錢) 乙一個(拾錢) 郵券代用一割增

△裁縫スル際若シ誤リテ針ヲ疊ノ敷合セ等ニ落シタル時ニハ本器ヲ其敷合セニ當テナバ針ハ磁石應用ヲ以テ本器ニ吸ヒ付キ容易ク取リ得ラル△本品ハ其ノ構造比較的ニ小ナレモ裁縫用具一式ヲ秩序正シク收容且懷中シ安キヲ以テ携帶用トシテハ最モ便利ナル良具ナリ△本品ヲ用ユレバ針ヲ紛失シ又ハ錆ヲ生ズル等ノ憂ヒ無シ△本品ヲ用ユレバ針ノ種類ヲ容易ク見分ケラレ又其數ヲ容易ク覺ヘラル△本品ハ御進物用及ビ各商店ニテ景品用トシテ至極高尙優美ノモノトス△特約販賣御望ミノ方ニハ特別大割引可仕候

第一工場 東京府下北豐島郡田端九二六 第二工場 本所區菊川町一ノ十九

製造販賣元 東京市淺草區田原町壹丁目八番地 帝國內田商會

---

十二月 一日より十五日迄 歲暮割引大賣出し

東京銀座壹丁目

# 木村屋呉服店

電話新橋四一三九番 芝公園勸業館內出店 横濱伊勢佐木町支店

---

# 女鑑

一部廿錢半年分一圓拾錢

第十七年拾貳月號目次

◉主婦と常識 市村博士
◉女子敎育說 小林博士
◉胃腸養生法 長與博士
◉小兒敎養談 鈴木ドクトル
◉婦人の衞生 楠田謙藏
◉家庭と心理 高島平三郎
◉女子と地位 横井博士
◉婦人の覺悟 太田博士
◉男女の交際 大塚楠緒子
◉耳の滋養 天谷秀

◉小說返り花 廣津柳浪
◉家庭と衞生 岡田博士
◉茶の話 澤村博士
◉女子と繪畫 岡不崩
◉物と色 田中學士
◉處女の心得 阿久澤外記
◉料理實驗談 富田豐春
▽連理の枝△社交界の貴婦人▽井伊家の後園▽獨逸幼兒風俗▽冬の水▽上州の名所▽蒙古の學生等

振替貯金口座一一七八

來春新年號より廿世紀的發展をなして面目を一新すべし本誌を讀まば有らゆる婦人問題は解決せん

東京京橋區築地二丁目 國光社

---

創業廿五年の祀儀として左記三種各五千個に限り發賣致候處非常の御好評を蒙り遠からず賣切相成可申候間

更に各千三百個を限り增製貴需に應ず……

純良絹絲 羽織紐特價發賣

年末年始の御進物には最も適當品なり

紳士用 撚り返總付き 丸打長結 定價壹圓七十錢 特價壹圓四拾錢

紳士用 同 籠打中長結 定價八十五錢 特價七拾二錢

淑女用 同流行形 蝶結 定價五十五錢 特價四拾三錢

地方より御注文は(五個迄)內地は小包料八錢を要す

送品は御送金着順に依り御送付仕候(振替貯金口座壹壹八六五番)

東京市日本橋區芳町 佐竹組糸舖 長電話浪花一五六番

---

工學博士平賀先生試驗證明

好評嘖々

ゆびわ類 時計鎖類 根掛簪類 寶入金具類 眼鏡釦類

本品は黃金の延板を以て製し中身に純銀其他の重金屬を用ふ故

於五二共進會

見本 指環壹圓六十錢 時計鎖叁圓九十錢 眼鏡貳圓九十錢 送料十錢 振替貯金壹貳九叁

に頗る重くして美麗永年變色せざる等世間既に定評あり試給へ

東京日本橋十軒店 長電話本局九七五 土產商會

---

妾事薄毛にて種々藥を試しも効なく醫博士令夫人迄三百所より奇藥を得薄毛も濃くなり生へざる毛も生し嬉さの餘り困る方に分與せしに有餘の禮狀を受け不思議のまゝ尙困難者へ告ぐ三錢郵券添御照會あれ……

東京々橋越前堀一ノ四 河村愛子




Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 男子の盛んに實用せる文明のトイレット!!!

將校及び高等官を始め東京紳士は擧て舶來石鹼より優るクラブ洗粉を以て最良の洗面料なりと賞用せられ海軍將校の水交社及び三越呉服店等を始め信用ある化粧品店にては男子の實用品としてクラブ洗粉の賣行頗る増加しつゝあり

## 華族夫人と七百家の家庭に於る化粧品

某侯爵と伯爵兩家の令夫人は最も大切なる婦人の素顔を美しくするには新しき空氣と共に効用著しき日本第一のクラブ洗粉を石鹼よりも良品なりと同族間に弘く紹介を給はりしが今や七百有餘の公侯伯子男の家庭は殆んどクラブ洗粉の愛用者にして三越呉服店に於ける御用常に頻々たり

## 宮中の御化粧品　女官

日本宮中の女官の方々を始め東宮御所の女官皇孫御殿の女官の方々は日常御身を清めさせらるゝにクラブ洗粉を以て尤も適當なりと賞せられ本年四月廿六日第一回の御用を三越呉服店へ賜はり其後八月十六日迄の御用數十回に及ぶ

## 外國婦人が信用せる化粧品

英國大使マクドナールト伯爵令夫人は日本のクラブ洗粉を以て外國製の石鹼よりも良品なりと賞し東京津村の手を經て日常盛んに愛用せられつゝあり

## 將軍の令夫人と三越呉服店

三越呉服店の手を經て有名なる東郷大將閣下の令夫人及び黑木大將閣下の令夫人並に令孃の君は卅九年八月頃よりクラブ洗粉の熱心なる愛用家にして其の重き賞讃は貴婦人間にクラブ洗粉の大流行を現はす所以となれり

## 日本最高の女學校　高尚なる流行

學習院を始め日本女子大學校の各生徒方は美しき素顔を現はし給ふにクラブ洗粉を以て尤も良品なりと賞用せられ今や女子大學附屬の櫻楓會も又之れを販賣せられつゝあり



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 雜報

▲會員諸姉に警告　年の頃三十二三歳の婦人にて小泉こうと云ふもの、曩に函館の火災に罹りたる貧困者救助のため我が愛國婦人會に於て資金を得るとの口實を以つて、いかゞはしき書を昨今賣り歩く由なるも、本會に於ては右樣の擧これなきにつき、會員諸姉に對し警告し置くものなり。

△報德婦人會の催し　曩に明治三十八年二宮尊德翁五十年紀念會を擧行せしを期として創設されし報德會は、既に本紙の第一面にも記せる如く本月八日午後正一時より上野公園東京音樂學校に於て左記の順序に依り音樂、講演等を催す由

一、開會の辭　法學博士　一木喜德郎
二、二宮翁の三綽名　留岡幸助
三、報德の精神　鈴木藤三郎
四、獨逸國民の理想婦人　法學博士清水澄
五、音樂と品性　音樂學校長　湯原元一
六、音樂曲目
　一獨唱歌　音樂學校助教授　藤井環子
　一女聲三部　同　上　喜多襄子
　　同　上　藤井環子
　　同　研究生　小室千笑子
　　同　助教授　吉川ヤヽ子
　一ヴァイオリン合奏
七、挨拶の辭
八、餘興（講談）

▲クラブ洗ひ粉　坊間に流布する幾多の洗ひ粉の使用に際し、量の多少はあれ、一種の惡臭を發するは、最要原料の然らしむるものなれば、香料を加へて之を防ぐも、遂に全然臭氣を去る能はず。然るに此のクラブ洗ひ粉は、原料を他に採りたるものか、毫も惡臭なく、たゞ優美雅醇なる薫香の快感を與ふるのみ。而して分子極微なるが故に、肌膩りよく皮膚に天然の色澤を現はす効、顯著なるを覺ゆ。紅粉は一時を粧ふ假面のみ、天成の麗質を發揮するは眞の化粧法也。此の點に於てクラブ洗ひ粉は、最も賞讚に値すべきを信じ、此に紹介す

△東京女子音樂傳習所　麹町區飯田町二丁目の同所は音樂教授所としては其名も世間に知れ渡り社會に貢獻せし事も鮮からず從來專ら小學校教員及東京音樂學校入學志望者の爲めに音樂を教授し來りしが基礎も鞏固となり次第に隆盛に向ひたれば學校制度を設くることゝなり今回其筋の認可を得たれば近々音樂會を開きて生徒の演奏をなし從來同所の爲めに盡力せる新聞通信記者其他を招待する由、因に同所は和強樂堂の經營に任せし演中仁三郎氏の監理する所なりと

▲廣告▼

皮膚と牛乳

牛乳が皮膚を艶美ならしむるに卓効ある事は醫學社界の定論てあります

歐米の貴婦人は

競ふて牛乳を洗面料に用ゐ牛乳浴をして艶々たる美しき乳の如き肌を呈して居ります

牛乳の主成分を

採り幾多の研究と學理の應用に依り製出せし乳白化粧水『レート』は牛乳の臭氣なく腐敗し易き缺點を去りたる

理想的化粧水

なれば皮膚に營養を與へ配合せる高貴の香料馥郁として自然に美艶乳白の肌となる効果偉大　畏くも

東宮妃殿下

の御用命に接したるは能く『レート』の品位物質の如何を表示すべきを以て我國上流社會に可驚歡迎を受け

白粉を用ずとも

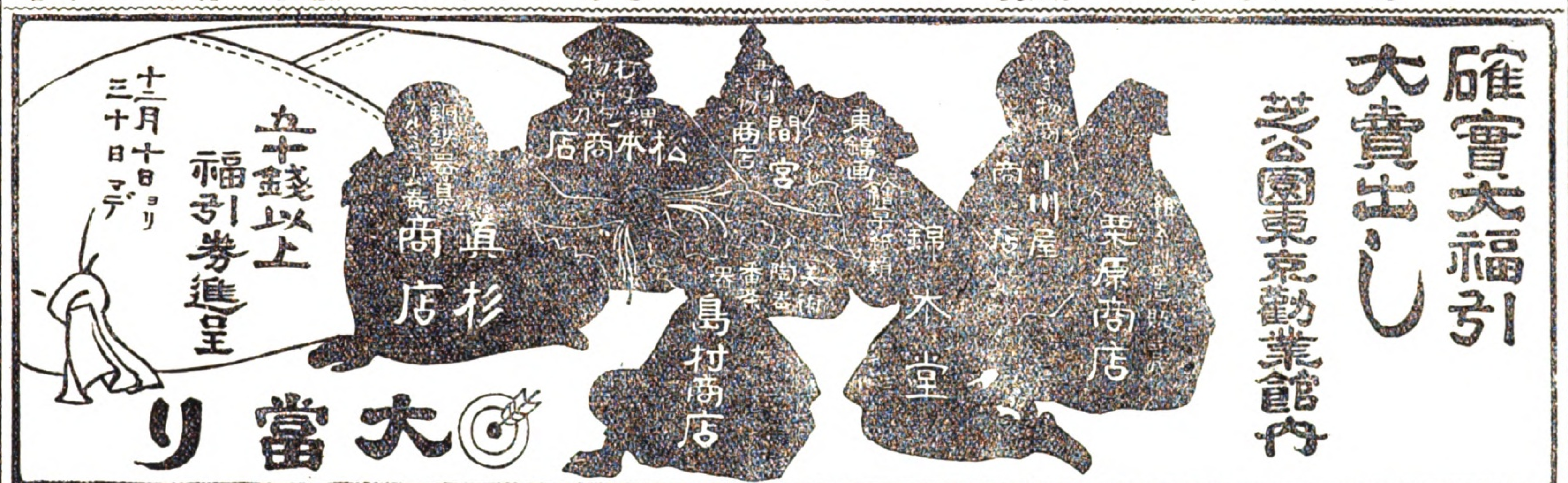
乳白化粧水『レート』を朝夕御用ゐあれば化粧しても化粧したかせぬかわからずに美しき素顔となるべし未だ

レートを使はぬ人

は御試用あれ定價は大瓶金五拾錢小瓶金參拾錢送料金八錢各地の文明的化粧品を販賣する店にあります

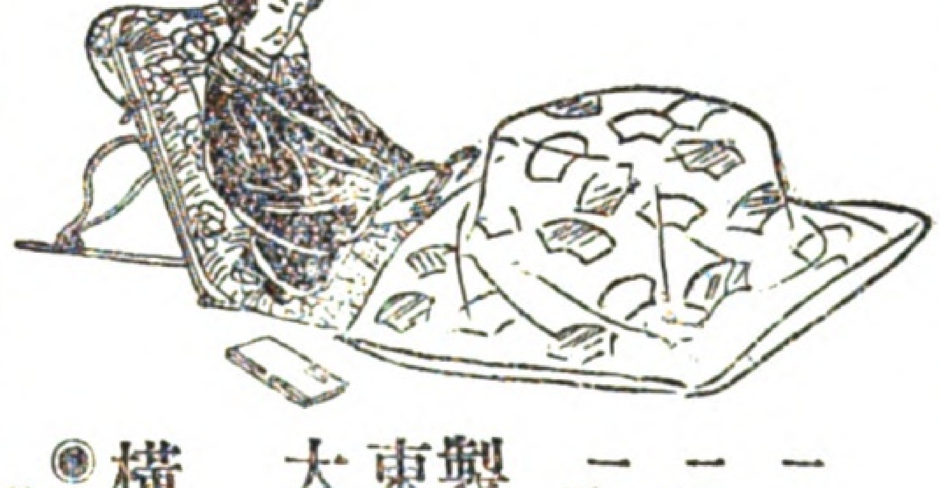
にせものあり御買求の節は瓶の表に『乳白化粧水レート』の文字及び瓶の裏にある『發賣元平尾贊平』に御注意を願升

發賣元　東京市馬喰町二丁目　平尾贊平
同　大坂市東久寶寺町二　平尾贊平支店



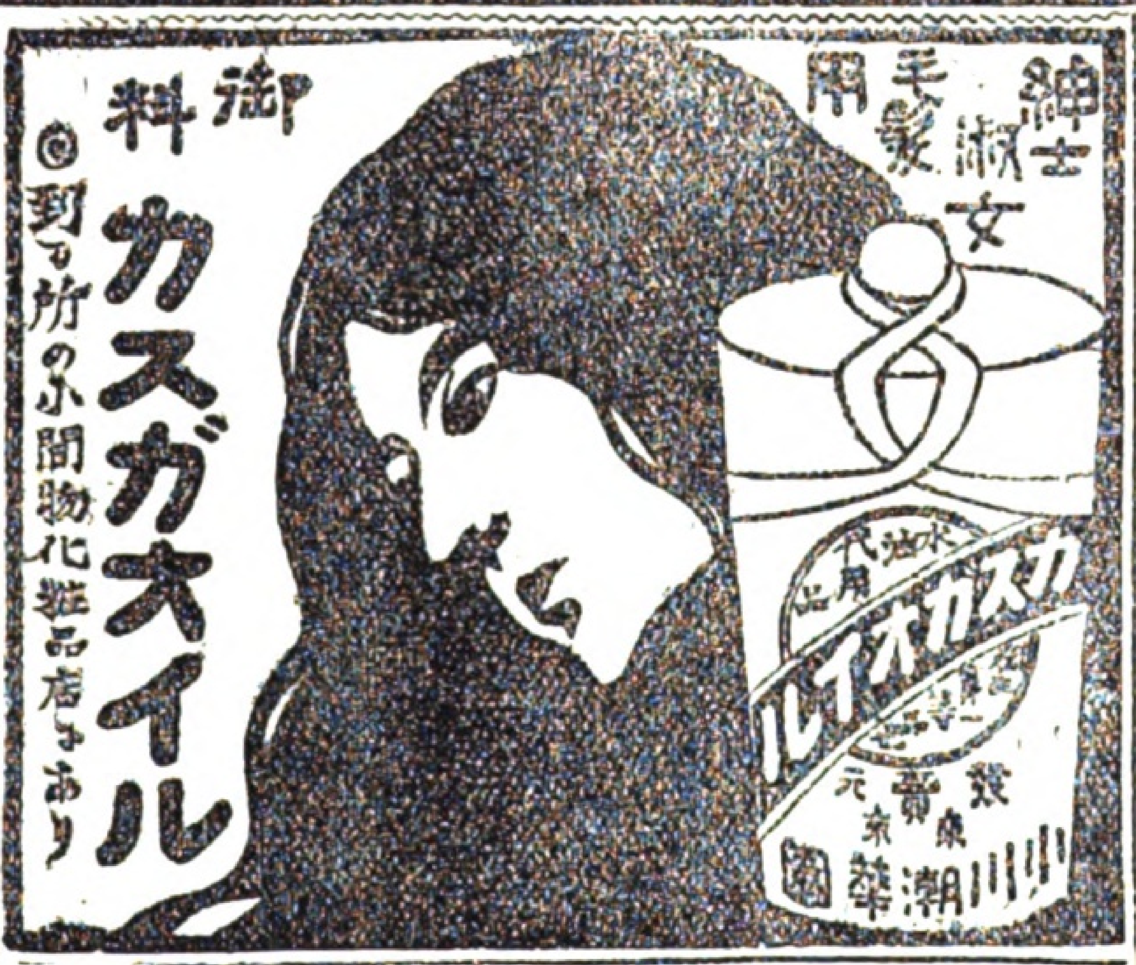

一森式座椅子　特許第九〇一〇號

此坐椅子は日本室内疊の上に坐臥せらるる人々に衛生的慰安を與ふる爲めに案出したるものにして一個にして坐椅子となり寢臺となり使用了れば疊込みて携帶に便なり材料は鐵骨にエナメルを塗り之に强靭なる厚布を張り更紗メリンス縮子、二重羽、縮緬等の蒲團を加へ後頭部の觸るゝ處には蒲團の下に螺旋狀の枕を裝置しあるにより心地誠によろしく老人姙婦各種病人に適し特に肺病患者又は其疑ひある人喘息患者等之に倚れば自然胸部を擴むるにより大に病勢を減ずるの効あり



（定價）
一エナメル塗更紗蒲團付　金六圓五拾錢　特製　金七圓
一エナメル塗メリンス友禪又は舶來模樣付毛繻子蒲團付　金七圓五拾錢　特製　金八圓
一エナメル塗唐草蒔繪羽二重又は縮緬蒲團付　金貳拾圓以上

製造發賣元　東京市芝區下高輪町廿一番地（東禪寺電車停留場前）電話新橋三〇六五番　樂民堂
東京特約店　日本橋區駿河町　三越呉服店
大阪特約店　西區土佐堀裏町六八番地　電話（長）西、一八二三番　常磐商會
　東區高麗橋筋　三越呉服店大阪支店
横濱特約店　住吉町五丁目六十八番地　電話一〇七二番　杉野亥之助
◉本品は高尚優美にして室内の裝飾ともなれば歳暮年始の御進物に至極適當いたし候




塚原澁柿園氏大著述
大石良雄
前後續三編共完結
前後編各七拾五錢　續編九拾五錢　送料各金八錢

徳川氏の初代、天下の人心を震撼し今尚冥々中、國民を感化しつゝある一大英雄の眞面目、作者に書かれて躍如たるを覺ゆ。女々しき小説に厭ける今日このごろの世に本書の如き大に歡迎せらるべきを疑はざるなり。……（京都日々新聞批評）

發兌元　東京市京橋區南鍋町　隆文館

十二月二十日より卅一日迄　歳暮大賣出し　當日粗景呈上仕候
勅題模樣並に流行新柄
御半ゑり各種
其他大見切半ゑりいろ〳〵
東京日本橋通り三丁目六番地角
電話本局三千九百四十番



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

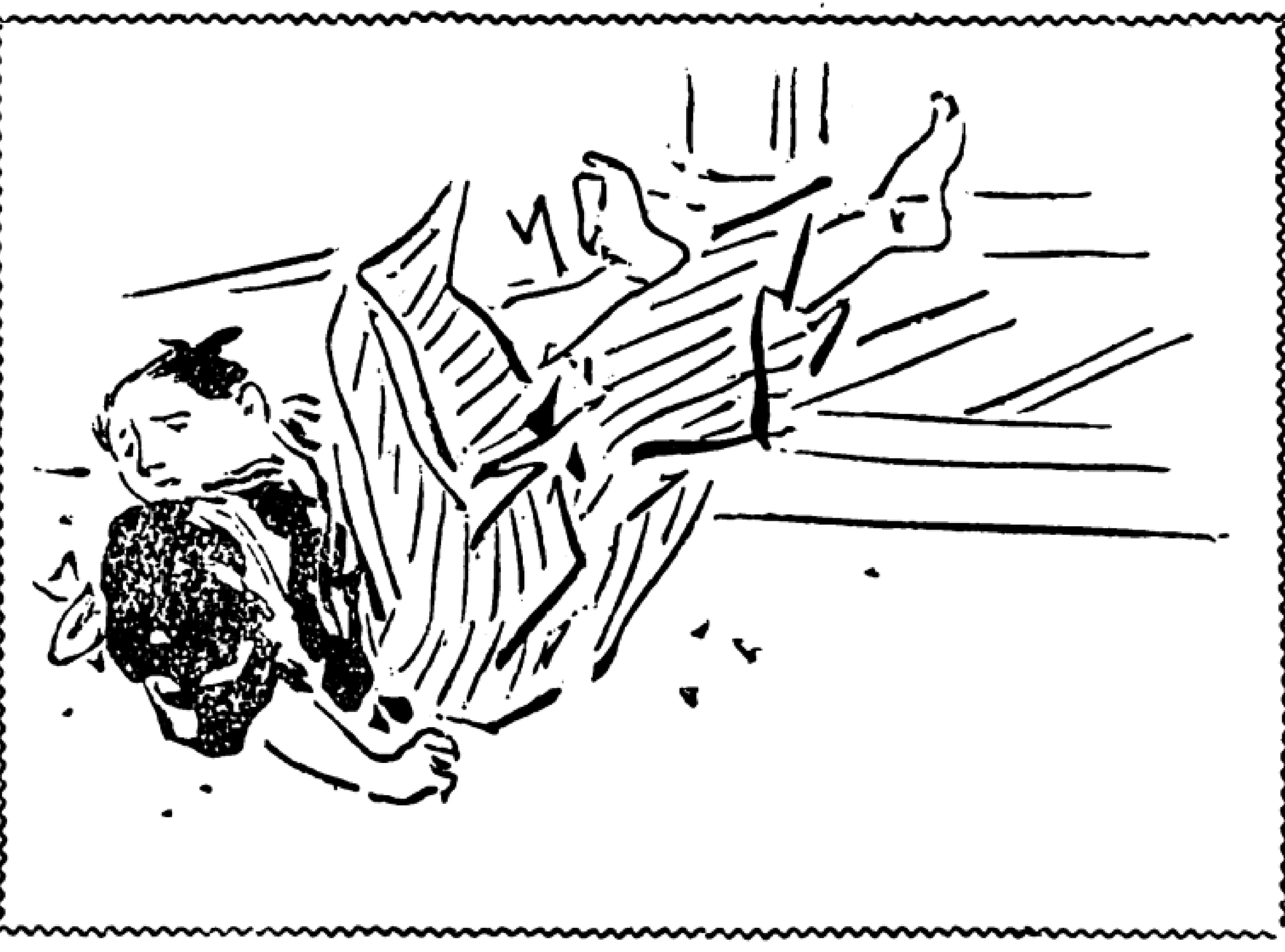
講壇

# 藤田かの子之傳

東湖先生の妹――器量は立派なれど――
縁談は二の町――水戸公が御媒酌

大島光利口演

抑も藤田かの子と申されるは藤田東湖先生の實妹でムいます、父を藤田幽谷と申し、水戸家の臣として天下に名高く今日も人口に殘り居ります。左れどかの子は相貌至つて醜陋故に縁談が遠うムいます。然るに藤田東湖先生は御主齊昭公の蟄居と同時に水戸表へ歸國を命ぜられ御城下々町の竹隈と申す處に住居いたされる或人の話に上市黑羽町に住居する食禄五百石の大身久木直次郎と申す人は腕力衆に勝れ劍法を宜く會得し江戸直御抱へとなりし劍道の師範役杉山大助の門人金子武四郎と立合美事に勝を制したる趣き聞及び親しく見物せざりしを殘念に思はれ、わざ〱書面を發して招きたるに、久木直次郎殿は水戸家の大守前樣(前樣とは中納言公の事)の寵臣東湖先生の招きは無上の名譽とて、早速翌日袴羽織華美に扮装藤田先生の住宅へ參り聽て門前へ來り衣紋を繕ひ門からズット入ればコハそも如何に左りの門傍に東湖先生襷鉢巻勇ましく扮装異狀の有樣合點ゆかずと小腰を屈めて挨拶なさんとするときも、エイヤッと傘を翳たる手首を捉へる大力の藤田先生が前に引たゆゑ思はず蹣跚とよろめきしが血氣の久木何とて猶豫すべき、笠を投出して四つに渡りエイヤッと揉合しが眞神流の柔術の秘訣氣合をかけて投出せば藤田先生の大兵玄關側に倒ぶ、押かゝつて手首を捉へ息も切れ切に聲張あげ、久「之は藤田先生には何ゆゑ戯れをなさる拙者に酒肴の用意あり來たれと云ふ御招き、萬障繰合せてまゐりたるに馳走處か此の狼藉、物にばし狂はれしか。定めし何か宿意でも抱かれ居らるゝや。拙者先生に御恨み受る覺えはムいませんぞ。御返答に由ては此儘には免し申さぬ速かに御答へあれといきまきあらく罵れば藤田先生泥まみれの顔を擧げ藤「イヤ久木氏然う立腹いたさるゝナ貴殿の腕力の剛き事金子武四郎と立合つて勝を得たる噂家中に喧譟しと雖も、百聞一見に如ずじや、常に拙者が唱へて居る文武は車の兩輪じや、拙者は文學は好む道なるが家中の若者文弱の弊に流れるを悲み、大和魂の骨髓は文武二道に因て忠孝の道を立る。今月御招き致したるも實は御腕前を試す爲であるイヤ驚き入つたる貴殿の技倆、到底拙者は及び申さぬ。家中の人々が賞美なすも無理ならず、甚だ失禮を致したと云ひながら顔をシカメて起上り手を鳴らして下女を招び、藤「イヤ久木氏が御出になつたから盥へ水を汲で御洗足を差上よ、必ず粗末の無やうに申し付たぞ。久木は胸中大に驚き客を招いて唐突に狼藉をなす、此上の失禮のあるべきや、此上如何なる事を爲すやと薄氣味わるく存じながら座敷に通る、衣服は總て藤田の衣服を借受ました、東湖先生は體格好と雖も猶背の勝れたる事久木に及ばず久木直次郎殿は身の丈六尺に達すべき大兵。私し親しく老後の久木氏に弘道館にて面會なし懐舊談を聞たりしとき倘身體強壯にして壯者を凌ぐの有樣でムいました。……借て用意の酒肴を出した。頃しも秋の事なれば庭に咲亂れたる萩の花は露おもげなる風情、叢中に、面白氣に鳴く蟲の音は何となく淋しけれども一段の雅味を添る時に東湖先生の妹かの子下女と共に酒席に侍り、酌を執て歎待折り醉がまはるにつけて藤田先生は左右の手を膝に置形を改めて　藤「借久木氏貴殿は未だ御内儀を御有なさらぬが何故今日まで御迎へなさらぬナ　久「イヤ拙者は我儘の氣質と云ひ、殊に種々所望がムざる、藤「ハア如何ですナ拙者が御媒酌いたすが容貌は先づ同藩中にても二とは下からぬ婦人でムざるが　久「ハテ借御親切なる御仰、先生の御鑑定にて然やう仰ある上は間ちがひもムざるまい。先方の容子に依つては貰ひ受まいものでもムいません。シテ容貌は衆に勝れたとの御言葉、何れ御同藩でムざらうが、永らく江戸に滯在ありし事とて小石川の上邸にあるか但しは駒込の御下邸詰の同藩なるか　藤「イヤ國詰です、久木氏の吸物の給事をいたして居る拙者の妹おかのでムざると云はれて久木は餘りに顔の醜きと



色黒く身顫の出るやうな醜婦に思はずアッと驚いた故、おかのもおもはゆげに顔をそむけんとする、給事盆からすべつて吸物椀は疊の上にくつがへりましたが、折角面白く飲たる酒の醉も醒めはて君子危きに近寄らずと恭しく疊に手を突まして、久「御戯れかは知れませんが若し此縁談が眞實なれば未だ親がゝりの拙者の身分、親の承諾も得ねばならず何れ立歸つて親と相談の上、何分の御挨拶申し上べし。今日は如何なる吉日ぞ意外の御馳走を受け何とも御禮の申さうやうもムざらぬ。今晩朋友が打揃つて史記左傳等の輪講をなす約束あるを忘れました、失禮ながら之にて御免を蒙ると其儘立歸つてしまいましたが、其後更に返答もなし、東湖先生打笑いて　藤「かのやお前も容貌が美なる方ではないが久木も美男子ではない馬のやうな長い顔をして矢張り容貌好みと見える、婦人は美目形より心のうるはしきを以て善となす。若い裡は内部の醜美を問はず、眼に見る顔の美醜を皆えらむ。我も壯年時代は矢張り然であつたと妹と話して笑ひ居りましたが、或時前樣の御前に罷り出て、此事を申し上ると、御笑ひあそばして　殿「ウン左樣か、久木から何とも未だ返事をして來ないと申すか　藤「ハイ　殿「宜い予が扱ふて見やう近頃の一興じや。恁う仰せられましたが果して御名君たる齊昭公は隅から隅まで御注意の屆く方にて、久木直次郎が御機嫌伺ひに出たるとき、何氣なしに　殿「直次郎其方は未だ家内を迎へぬさうじやナと御尋ねにハット平伏いたし　久「未だ良縁の見當り申さず、獨身にて居ります　殿「ウン然か、家に妻なき時は梁なきに同じ、早く妻を迎へて兩親に初孫を見せるのは孝道の中じやぞ、直次郎予が媒酌して取らすると、思ひがけなき君命に久木胸中に以爲く藤田先生の方未だ其儘になして置たるが君命にて他から娶る、極れば東湖先生に謝絶なすも敢て失禮とは申されまい、之ぞ幸ひの事なりと内心ホク〱打悦び　久「有難き仰せ、主君の御沙汰にて妻を娶る事直次郎一家の名聞幸福此上はムいません、尊命に隨ひ奉ります　殿「ウン好、左うであらう、然らば可否はないナ　久「ハイ何しに違背仕りませう　殿「然し親ある其方の身分、又改めて親の許を受ねばならぬなぞと申して……。久「什麼仕りまして君命重し、親等に於ても無かし有難き事に存じませう、世上の縁談仲人の申し入れなぞと事違ひます、殿「しかと宜かと再び念を御入になつたのは東湖より委細御承知のある事ゆゑ辭退ならざるやうに念を押れたとは夢にも知らず久木は君命なるが如何なる者の娘が我が妻となるか、當時宮仕へ御殿御奉公中にて近々年が明て宿下りにてもなすものなるかと胸中種々なる想像を描き居りますると主君は可笑を忍んで　殿「直次郎藤田誠之進の妹であるぞと仰せられた時にハッとばかりに途胸を衝き　久「ハイ　殿「おかのと申する婦人がある、志至つて雄々しく所謂女丈夫じや、藤田幽谷の家庭教育を受け、兄東湖より婦節の道を説かれ、天晴女丈夫なりと聞及ぶ。之を媒酌して取らする、左れど若殿輩の常としてたゞ容貌のみ論ずるが笑ふに堪たる事じやと恁樣に仰ある故、久木は宜々の惡縁なりと御受致して、御前を退出いたしましたが、親御を始め親族とも相談の上日を撰んで結婚の式を擧げました。其時始めて藤田先生は久木の縁家となつて直次郎に對ひ、妹かの子は男勝りの氣象にして一朝事ある時には立派に御身の事業を助くるもの拙者弓矢の神に盟つて御受合申す、唯我が存生中に妹の働を見て御身に誇りし言葉の嘘ならざるを誇りたいが然はまゐるまいと常に云はれたるとか。然るに安政二年十月二日の地震は未曾有の災害にして水戸家の忠臣英雄と云はれし藤田東湖先生は江戸に於て壓死を遂ました。然る處水戸の御藩中は佐幕攘夷の二つに別れ、議論擾々たる時に、久木は攘夷に偏せず佐幕に倚らず正義公道を以て我が方針となす。爲に親族藤田小四郎等の行動を敢て嫌ふにはあらざるが一個特別の主義を有ました。此連中を水戸では柳派と申しました。借こそ雙方より恨みを受、其危き風前の燈火の如く遂に暗殺事件を惹起すに至る、時に妻のかの子が兄の一言空しからず天晴女丈夫の本體を現し良人の大事を救ふの一席は又其中に。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

十二月一日より歳暮賣出し仕候

歳末年始御贈答品御仕着物は最も御恰好の品取揃へ置き寄切見切反物も亦澤山陳列致置候間多少に係はらず御用仰付被下度願上候也

神田今川橋

松屋呉服店 電話本局(五八八 六八八 七四七)

醫院案内

岩佐病院 日本橋區蠣殼町二丁目廿三番地(電話浪花六九七番)

診察時間 自午前九時 至正十二時

内科婦人科 院主 岩佐純

内科 院長 ドクトル 岩佐新

(獨乙留學中) 副院長 醫學士 高田壽

外科 醫學士 山村正雄

産科婦人科 醫學士 西村漸

腦病脊髓病 醫學博士 土田卯三郎

齒科治療 ドクトル 齋藤清太郎

麹町有樂町帝國ホテル向(電本千五百十九)

峰内科醫院

神田區西今川町三番地(電話本局三〇一九)

内科病特に腦脊髓神經疾患

院長 ドクトル メヂチーネル 峰秀世

内山小兒科醫院

午前宅診午後往診 入院隨時

淺草區下平右衛門町十七番地 柳橋通り(電下一三六五)

小兒病診療

宅診午前 往診午後

淺草區福井町貳番地

醫學士 内田慎太郎

●電話下谷七一八番

鳥山内科院

院長 醫學士 鳥山南壽次郎

午前診察 午後往診

京橋區鎗屋町十一番地 電話新橋千七百四十六番

腦病脊髓病

●午前 自宅 神田多町壹ノ八

●午後 岩佐病院 日本橋區蠣殼町

神經衰弱、ヒステリー、中風癲癇 神經痛運動障害等

醫學博士 土田卯三郎

●水原産科 婦人病院

○所在神田區猿樂町十二番地(電話本局千八〇九番)○外來診察午前中○入院往診隨時○同院に私立産婆學校の設あり

産科婦人科專門

診察每日午前 入院隨時

淺草區左衛門河岸 電話下谷一〇二八

岩田病院

●婦人病專門

院長 櫻井克己

芝明舟町十九虎門外宮樣前 電話新橋三三二四

櫻井醫院

○院長 ドクトル 木村順吉

京橋卅間堀一丁目角(電話新橋二六七〇番)

婦人科産科 木村病院

◉◉婦人科小兒科專門 午前宅診 午後往診

東京市麹町區飯田町四丁目九

女醫鷲山彌生

内科一般 午前宅診 午後往診

東京神田美土代町三丁目十九番地

板垣亭

電話本局貳千九百七十番

增築落成

産科婦人科 東京日本橋區濱町三丁目七番地

楠田病院

花王石鹸三大特色

衛生として如何に有効なるか?

游離質其他混合物等なきが故に肌を粗す事なく能く皮膚を清淨ならしむ又配合藥の作用に依てにきび。ふきでもの等を生ぜす加ふるに傳染豫防の効あり

經濟として如何に徳用なるか?

品質純良なるが故に其多量を要せずして數多のやわらかき細泡を生じ能く垢を去り加ふるに價格廉にして永く使用し得らるゝの德あり

化粧として如何に有効なるか?

肌を美麗に色艶を能くし髮を洗へば毛をやはらかく光澤を生じ加ふるに使用後さつぱりとして石鹸分を殘留する事なし

花王石鹸本舗 東京市馬喰町 長瀬富郎

關西代理店 大阪市安土町 大崎組商會

新築落成

十二月一日より三十一日まで賣出し

景品の外に餘興福引

一日 二日
三日及八日
十五日 廿二日
廿九日の日曜日

上記七日間御買上額金一圓以上五圓未滿は乙種福引券一枚を五圓以上は五圓を增す每に甲種福引券一枚差上申候

甲種福引券景品

一等(百圓呉服切手一枚) 貳本
二等(五十圓同 一枚) 五本
三等(二十圓同 一枚) 十本
四等(十圓同 一枚) 貳十本
五等(五圓同 一枚) 五十本
六等(參圓同 一枚) 百本
七等(一圓同 一枚) 參百本
以下數種計 五千本

乙種福引券景品

一等(二十圓呉服切手一枚) 五本
二等(十圓同 一枚) 十本
三等(五圓同 一枚) 二十本
四等(一圓同 一枚) 百五十本
以下數種 五千本

日本橋通四丁目 松屋呉服店




Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京勸業博覽會二等賞牌受領

○都足袋ハ曩ニ農商務省ニ出願シテ登録商標專用ヲ得タル物ナリ
○都足袋ハ外觀優雅ニシテ現ニ都人粹士ノ歡迎ヲ受ケツヽアリ
○都足袋ハ踵ニ縫目ナク衣服ノ裾ヲ傷フヿナシ

都足袋粹乃友

○都足袋ハ製作ニ至大ノ注意ヲ拂ヘリ故ニ履具合良好縫目破綻ノ憂ナシ
○都足袋ハ材良最モ優逸ニシテ經濟上尠ナカラザル効力ヲ有セリ

三重足袋君の益

○三重足袋君カ益ハ甲三重底三重ナルヲ以テ優ニ二足分ノ耐力ヲ有セリ
○三重足袋君カ益ハ甲三重底三重ナルヲ以テ脂肪ノ滲出ヲ遮ギリ體温ヲ保ツノ特長アリ

白紺 羽二重 絹足袋

○本品ハ高等服裝ノ際ニハ最モ必要ニシテ殊ニ交際場裡且ハ婚姻盛典ヲ擧ゲラル、時抔ニハ本品ニ頼ラザレバ華美ナル盛裝ニ缺點ノ譏アル耳ナラズ貴重ナル衣服ノ裾ヲ傷フヿアル可シ

各種足袋調製所
龜屋 宮内清兵衛
東京日本橋通リ室町三丁目
電話本局一七二番（略電カメヤヌカ）
御注文品地方は代金引替郵便小包拾足以上送料自店持にて御送附可仕候

例年の通十二月十五日ゟ年内歳暮大賣出し
大見切 半ゑり種々
半襟は赤のれんニ限ル
本店 神田區表神保町 電本二八五三
出店 新橋博品館階上

日本一 婦人雜誌 本年掉尾の盛裝を見よ

婦人世界

十二月一日刊 二卷拾四號 冊拾五錢 郵稅壹錢五厘 六冊郵稅共九拾錢

△天下を驚せし男女戀愛論は最後の斷案を下して痛快 村井弦齋居士
◎ミシン使用の實驗（伊藤せい）
◎初て就職せる時の所感（山元）
◎婦人寫眞師の實歷（德力作子）
◎弦齋林檎のお料理…弦齋夫人
◎少女欄は弦齋氏校閲
◎最重寶歳暮の贈物
◎私の最も感心せる歷史上の婦人 嘉悦孝子
◎私が祖母より受けし感化……高等女子實習學校講師 星常子
◎十四年前の跡見女學校……三菱銀行副長夫人 桐島銃子
◎愉快なるクリスマス 女子英語學會主任 藤生貞子
◎青年子女に對する母親の注意
◎弟を助けて苦學せる婦人實歷
◎注意小兒鼻カタルに就て 加藤博士
◎婦人小兒科問答
◎流行の防寒用具
◎安産 手當（榊博士）
△雙子は如何なる故に生るゝや（醫學士 伊庭秀榮）

東京京橋南紺屋町十二 實業之日本社 振替貯金口座

例年の通り從十二月一日至三十一日 年内だらく大賣出し 賣出し中景品進呈
新年御題 社頭の松 半ゑり帶揚類 嶄新考案優美高尚雅致有る生粹好み 刺繡○友染○絞り形○色黒地○本天
未曾有大見切 最優等半ゑり三掛組合せ 壹圓と貳圓と
獨特の大見切大福箱 半ゑり帶揚 貳圓と壹圓と
○右見切は御地方の送品手廻り不申御斷仕候
○嶄新形ショール○大都花織絹毛織糸編類
○襟飾ネクタイ○男女方襟巻○懐中帛紗○前掛
○襦袢袖○長襦袢○高祖頭巾○小兒頭巾○帶止
本店ゑり治 新橋竹川町十二 電話新二〇二七
支店ゑり治 神田表神保町一 電話本局九五二
支店ゑり治 新橋博品館内階下

製造發賣元 佃屋シャツ店 東京日本橋區ふきや町十番地（電話浪花二三四八番）
特約販賣店
東京々橋區南傳馬町貳角 ツクダヤシャツ店
横濱市伊勢佐木町壹 岡田屋商店

改良婦人もゝ引

定價八十五錢九十五錢一圓五十錢の三種
こは最精選のネル地製にしてよく腰部を温め腰巻を附隨し股部の工合等御召心地のよき事は在來の婦人股引と比ぶべくもあらず衛生と實用に適し御婦人方御召料として眞にてき當なる御品なり
（東京勸業博覽會賞牌受領）

宮内省御用達 茶菓兼用 ふしれる（御所の豆）
レモン入、コーヒ入、チョコレット入、イチゴ入、薄茶入、
製造元 國安商店 東京京橋竹河岸 電話新橋二三四六
東京支店 日本橋區小網町三丁目 中野長兵衛 電話浪花五七七四

最上醤油 キハク印
內國勸業博覽會 名譽大賞牌受領
釀造元 千葉縣野田町 茂木七郎右衛門 略號（キハク）
キハク印醤油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

最上醤油之元祖
宮内省御用達
開業二百六十三年
釀造元 下總銚子町 濱口合名會社 振替貯金口座五〇二一番

諸官省御用 綿保險附
矢田本店 東京神田區表神保町二 電話本局（長）二〇一八
矢田支店 小川町南明館勸業場内
蒲團商大王絹布あり
正札附引なし 市内無賃配達
●上等並等澤山あり御好次第山の如し 夜具蒲團 蚊帳 ざぶとん 街鐵も外濠線も小川町東明館前に下車を乞ふ
十五日より三日間 歳暮大賣出し 景品呈上

資本金八百萬圓
株式會社 十五銀行 東京京橋區木挽町 電話新橋 一五三〇〇番 三一九三番
同 日本橋支店 同日本橋區新乘物町 電話浪花 一九〇一番 三二七四番 三五〇八番
一定期預金 六ヶ月以上年五分
一當座預金 日步七厘以下
一特別當座預金 同 壹錢




Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱

京橋區數寄屋橋外　弘報堂
神田三河町　博報堂
京橋區南紺屋町　一星社
京橋區南鍋町　秀逸社
日本橋區上槇町　萬年社
日本橋區箱崎町　春風舍
京橋區宗十郎町　正路喜舍
京橋區日吉町　帝國通信社
同區彌左衛門町　同
同區南鍋町　京華社支店
廣告社

洗用 ワツセル

◎此ワツセルは油じみ油あか如何なる汚れでも揉ずに必ず落る石鹼曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります

◎用法は湯一升に二匁(小杯へ半分餘)の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し揉ずに置き後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシャツの如きは(拾貳匁入)一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髮は一匁五分を一升餘の湯に溶解してかもじを洗ふ樣に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具を拭き掃除にも有効です

定價　拾貳匁入　金拾五錢　六匁入　金八錢　袋入二錢

芳香御肌洗粉 ワツセル

◎此肌洗粉ワツセルは當時歐米各國貴族社會に流行する芳香類を加味し製造せしものなれば朝夕御使用の方は香氣馥郁として肌持晴々す又おしろいしたを用ひずして御化粧が出來ると妙なり

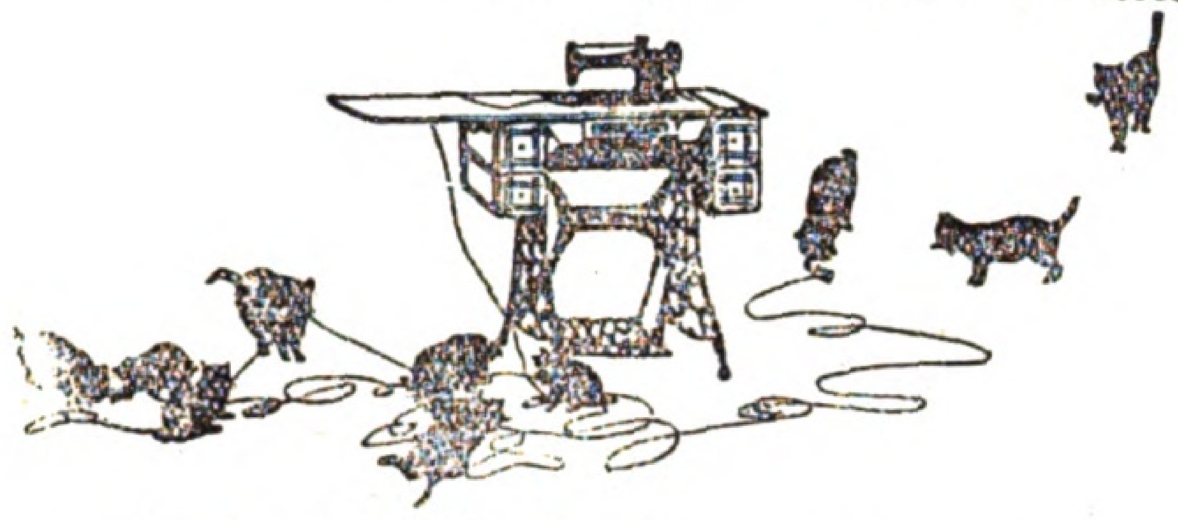
定價最上金七拾五錢　五拾錢　參拾錢　拾七錢　金貳拾錢　普通六錢　三錢

東京市京橋區三十間堀三丁目　電話新橋一七一二
英國製ワツセル日本一手販賣元　御肌洗ひこ芳香ワツセル製造元
三友商會

全くの御素人を相手に大成効の
無報酬出張教授　京濱市內

出張第一回　ミシン使用法
同第二回　ミシン附屬品使用法
同第三回　解き方及縫ひ方一切
同第四回　裁ち方―小兒前掛類、帽子類種々
同第五回　縫ひ方―襦袢、單衣
同第六回　裁ち方―小兒簡單服、シッヤ類一切
同第七回　縫ひ方―袷、丸帶、博多帶、前垂、
同第八回　裁ち方―ヅボン下、ネクタイ、カラー、カフス
同第九回　ホワイトシャツ、ソフトシャーツ、仕事着一切
同第十回　水兵服、學校制服、立襟及外套
同第十一回　以後、裁ち方、製圖種々

家庭婦人向用
シンガーミシン
減價月賦大販賣
更に特減即金賣
從來の普通賃貸法其儘繼續
明細書　御申越次第無代送呈す



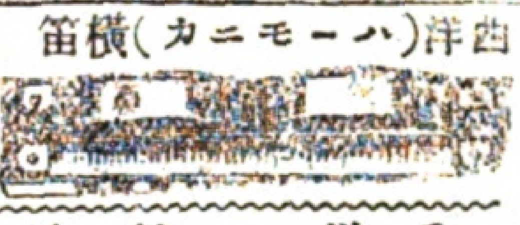
シンガーミシン裁縫機械會社
銀座三丁目　東京支店　電新三四六六

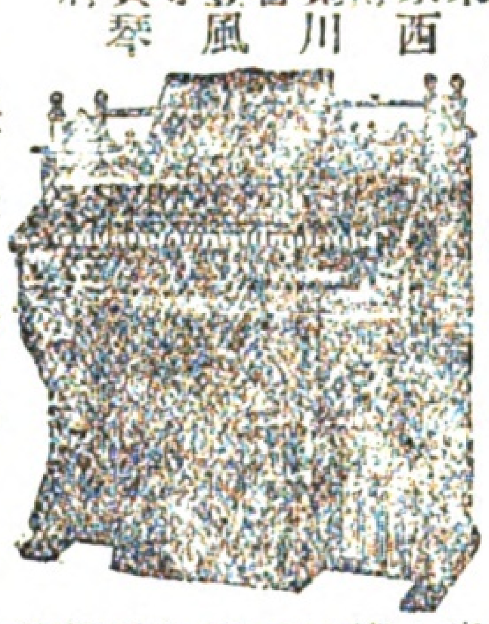
色白くつやをだす
松澤ホーサンシ石鹼

大形一個廿戔
小形一個十戔
(にせ物)あり右商標と松澤名義に注意
東京本石町四丁目　松澤常吉化粧品部

實用新案特許
二枚折藤井式衣桁
定價　甲六五〇錢　乙五五〇錢　丙五〇〇錢
東京市麴町區三番町廿九番地
掛物箱製造販賣　藤井兵太郎

梅田矯菓新田君著
家庭菓子製法
◎店頭にて賣る菓子は第一不經濟で不潔也故に上品なる家庭にて本書は自ら菓子を製造す
◎本書は…△蒸菓子製法　△羊羹類製法　△餅菓子製法　△饅頭類製法　△餡物製法　△麵物製法　△煎餅物製法　△洋菓子製法
◎材料器具方法悉く説明し且極めて簡便にて成效疑ひなく興味無比
◎全一冊美本　五十錢　◎郵税六錢　◎但郵劵代用は一割增の事
東京京橋南紺屋町二十　實業之日本社

西洋横笛(ハーモニカ)

◎教育的高等玩具類
◎軍樂隊用樂器類
船來手風琴　和洋バイオリン

平圓盤發音器
東京博覽會一等賞牌　西川風琴

音律正確　堅牢無比
長原春田著　明笛和樂獨習栞　正價廿五錢　郵稅四錢
郵劵二錢にて詳細目錄進呈
東京銀座三丁目　十字屋樂器店

下田歌子　指原乙子　天籟義編　校閱纂
女子文章軌範
國文を學び文を作り又懸賞文に應ぜんとする婦女子は本書を讀め最も有益の書なり又歳暮年始の贈物に適す
美本全壹冊　定價金五拾錢　郵稅六錢
發行所　東京市神田區上白壁町九番地　二松堂書房(振替貯金口座二四〇九番)

楠田病院長　產科婦人科　楠田謙藏先生校閱
產科婦人科專門　稻生鑑次郎君纂著
實習產婆學
全二冊大判洋裝
上卷　通常產　下卷　異常產
●上卷(三百五十餘頁)正價七十錢●下卷(新刊)(三百餘頁)正價八拾錢(郵稅各八錢)
上卷は通常產を講じ下卷は異常產を說く、通常產の異常產に於ける產科の兩輪双翼にして、助產婦たるもの相共に研修練磨せざるべからず、本書は玆に上下完結して斯學の全科を網羅す、說敍周到行文平易加ふるに插畫の精緻を以てす、產婆開業者は素より斯學を研究せらるゝ人は須く一本を座右に可備也

身心修養 長命術
ドクトル　フーフエーランド氏著　文學士杉谷泰山君紹述
大判上綴　四百二十頁　正價七十錢　郵稅十錢
人間壽命の定限を二百歲と斷定したる破天荒の名著にして先づ人生の長命術を細大洩さず評論し更に東西長壽者の生活狀態を敍し衣食住は勿論教育、宗敎、道德の各方面より修養、醫藥及び變化急應策等に至る迄悉く根據ある學說と實地經驗に基き精覈研鑽せる前人未發の一大卓見也。
長壽を欲する人　成功を欲する人　人格を高めんとする人　虛弱なる人　失望せる人　必要精讀

大哲フイヒテー述　文學士杉谷泰山譯
●人生解決 人間天職論(再版)　正價五十五錢(郵稅八錢)
文學士小玉龍藏著
●延命長壽法　中形美製　正價金六十錢(郵稅六錢)

東京　本町　博文館

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 森村銀行
電話(特)本局六七三番　電話本局四九八番
定期預金　六ヶ月以上　年五分五厘
當座預金　百圓に付日步　八厘
小口當座預金　同日步　壹錢壹厘

資本金壹千七百五拾萬圓
營業科目
一擔保附社債に關する信託業務
一有價證券其他貴重品等の保護預
一有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一地方債、社債、株式等の發行募集事務
一各種の信託事務
一國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一定期預金、特別當座預金
東京市麴町區錢瓶町(常磐橋內)
日本興業銀行
電話本局一、二八〇〇番　三、三〇〇番　四一番　(特)三七番　一〇二番

東京市日本橋區小舟町三丁目
株式會社 第三銀行
電話浪花四四二番　浪花四五一番
預金利子
定期預金　六ヶ月以上年　五分
當座預金　百圓に付日步　八厘
別口當座　同日步　壹錢
全國送金每手數料
其他銀行一般の業務を取扱ひ便宜を計る


明治四十年十二月五日發行(每月五日廿日二回)定價金三錢一ヶ月六錢郵稅不要　廣告料一行金六拾錢　發行兼印刷人 山澤俊夫　編輯人 大久保高明　發行所 東京麴町區飯田町 愛國婦人發行所　印刷所 東京牛込區市ヶ谷加賀町 秀英舍工場



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 附錄 愛國婦人會記事

## 社告

子爵小笠原長生立案
佐藤正校閲　愛國婦人會編纂

### 奥村五百子詳傳

近刊　全一冊

一部金五拾錢　郵稅四錢

本會の主唱者たる奥村刀自の傳記は明治昭代に於ける日本婦人の活動的歷史なると同時に一面は本會發達の歷史なり先般來本會之れが編輯に從事し今や彌々遠からずして出版の運びに至らんとす本傳記は四百頁以上の書冊となし其間に寫眞版を挿み文章を平易にし一般普及を旨とし汎く全國姉妹に頒たんとす此際可成急に他をも勸誘して續々購讀方本會又は本發行所へ申込れたし

尚本書よりして得たる多少の利益は擧げて奥村刀自紀念碑建設の費用に供し度に付可成多數に購入ありたし

發行並に賣捌所　愛國婦人發行所

◎本月評議員會日取　十二月十八日(第三水曜日)

◎評議員會　去月廿七日評議員會を本部樓上に開き左の諸件を議決せり

一、現行有功章附與內規改正の件

一、明治四十年度事務費中營繕費追加豫算事後承諾を求むるの件

當日出席せる職員諸氏は左の如し

近衛理事、三井監事、評議員鍋島、濱尾、關、高木(鈴子)、山脇、松浦、中山、三井(照子)、清浦、高木(富子)、松平(須磨子)、新山(雅樂子)、三井(壽天子)、松崎、有島、井伊、本庄、佐藤(猶子)、三井(榮子)、

◎總裁殿下台臨　豫定の通り廣島長崎兩支部總會に付總裁殿下に於かせられては岩倉會長阿部片岡兩評議員高松事務長補助等を隨へさせられ去月廿二日午前八時新橋驛御出發遊ばされたり當日左の諸氏奉送せり。

理事鍋島榮子　岡部坻子　島津田鶴子(代)
評議員伊東美津子　東鄉鐵子　長谷川辰子　鍋島易子　清浦錬子　濱尾作子　珍田岩子　高木富子　千家俊子　關邨子　保利久士子　堀光子　渡邊いね子　高木鐐子　中山幸子　古市幸子　鄉濱子　跡見花蹊　仁杉うた子　丹羽花子
幹事　市川美佐子　宇津木廣子　金子貞子　松平すゞ子　飯島鶴子　山崎とみ子　仁科しづ子　榊實子　韓國委員本部長鶴原誠子　其他本支部事務員等

◎故岩佐評議員葬儀　本會評議員男爵夫人岩佐德子氏豫て病氣の處終に去月十七日午前一時逝去せられたるを以て同月廿一日芝青松寺に於て葬儀を執行せられたり左の職員諸氏會葬せり

理事谷玖滿子　評議員山地謙子　清浦錬子　高木富子　松平須磨子　澁澤兼子　千家俊子　波多野爲子　關邨子　原禮子　早川里子　丹羽花子　保利久士子　豐島文子　渡邊稻子　高木鐐子　中山幸子　宇佐川種子　松浦島子　近藤從子　鄉濱子　有島幸子　佐々木芳子　幹事岡本くま子　小野ヨシ子　青木安子　福島とく子　西邑節子　木村つね子　栗塚龍子　勝野愛子　岡田靜子　川崎安子　宇津木廣子　金子貞子　東村峯子　榊實子　沼崎愛子　青木哲子　長原なか子　進道子　寺井豐子　手塚けい子　山口釉子等

◎支部幹事部總會　去月廿七日會長岩倉公爵夫人より三重支部長の申告により同支部宇治山田幹事部總會へ祝電を發せり。

◎長崎に於ける閑院宮並同妃兩殿下(同支部總會紀事は次號に讓る)　赤十字社長崎支部總會御臨場の爲め閑院宮殿下及び愛國婦人會長崎支部總會臨場の爲め同妃殿下には去廿七日午後四時三十五分御着荒川知事以下支部員學校生徒の出迎あり腕車に召され旅館紅葉亭に入らせられ翌日水產共進會に成らせられ各總會に臨場二十九日午後殿下は軍艦音羽にて鹿兒島へ又妃殿下には三十日縣立高等女學校に成らせられ翌一日午前九時二十分長崎驛發列車にて御出發あらせられたり。尚閑院宮同妃兩殿下は御滯在中廿九日午前孤兒院、盲啞學校、幼兒保育所等を御巡覽あらせられたり。

◎本會評議員下田歌子氏の名譽　本會創立當時特に本會の爲め盡瘁あり引續き評議員たりし下田歌子女史は二十餘年間華族女子教育に貢獻され居たりしが今回學習院女子部々長を辭任されたり去月卅日畏くも御思召を以て多年の勤勞不尠に付御紋章付銀花瓶壹對金子一千五百圓御下賜相成たる由なり名譽のことゝ云可し

## 廣島支部總會狀況

廣島支部總會は去月廿四日に開かれぬ是日畏くも總裁閑院宮殿下が台臨ましませし最とも慶ぶべき盛儀を擧げぬ會衆は七發の烟花を相圖に旁午絡繹として式場に向ひ定刻前には殆ど入場し盡し其數實に一萬有餘此盛況を觀覽せん者と朝來練兵場に赴くもの頗る多く午後二時君が代吹奏あり一同最敬禮を行ひ總裁閑院宮妃殿下には岩倉會長阿部、片岡兩評議員等を隨へさせられ御臺臨あらせらる茲に於て支部長代理摺澤夫人は先づ職員名簿及び會員表を捧呈し次て同夫人は開會の辭を陳べ終つて三十七八年戰役に關し皇后陛下より賜はりたる御令旨を捧讀す(此間最敬禮)捧讀終るや總裁殿下には玉音優に左の御諭旨を賜はる(此間最敬禮)

### 御諭旨

愛國婦人會廣島支部は會員頓に增加し會務も亦整ひ茲に其第一回總會を開くに方り諸氏と親しく相見るは智惠子の深く喜ぶ所なり

今や戰役の後を承け遺族癈兵の救護に對しては一日も忽にすべからざるものあり諸氏愈々奮て會旨を擴張し以て本會の目的を完成するを期せよ

御諭旨終るや支部長代理摺澤夫人は肅んで奉答の辭を陳ぶ

### 奉答

愛國婦人會廣島支部第一回總會を開くに當り畏くも總裁殿下の御臺臨を辱うし特に優渥なる御諭旨を賜はる洵に當支部の名譽にして光榮何ものか之に過ぎん今や自今益奮勵して會務の擴張に努め以て此光榮に報い奉らんことを期す謹みて奉答す

愛國婦人會廣島支部長　宗像直子

右終つて上田副長は更に會務並に會計報告をなし次て顧問宗像知事は來賓總代として祝詞を朗讀し次て木越中將の祝詞あり會員總代三坂ユキ子の祝詞朗讀あり尋て殿下には有功章を御觀授あらせられ更に癈兵及び遺族總代に特別御下賜金及御染筆を授與せられたり。其の終るや婦人會長岩倉久子夫人は慰問の辭を陳べらる。

次て摺澤支部副長閉會の辭を陳べ茲に其會を終り總裁宮殿下御退場此間一同最敬禮を行ひ第三鈴にて參列者一同退場し癈兵軍人遺族及び會員は紀念品贈呈所に至り紀念品を受取り尚參列せし癈兵遺族にして軍人恩給法第九條第一項より第四項に該當するものは御下賜金及び御染筆を拜受し夫より舊大本營、泉邸等の拜觀を許されたり實に近來稀れに見るの盛會なりき。

茲に仰臥せるは廢兵池末長太郎氏にして、椅子に坐せるは福岡支部三瀦郡幹事水落まち子氏なり。

◎山内理事歐洲に出發　本會理事侯爵夫人山内禎子氏は佛國に向て去月廿八日午後六時卅分新橋驛を出發せり左の職員諸氏見送りたり。

理事近衛貞子　代評議員德川久子　黑田清子　花房千鶴子　代鍋島易子　松平保子　寺內多喜子　濟浦錬子　代濱尾作子　有地捨子　阪井春子　千家俊子　仁尾繁子　高木鐐子　中山幸子　內山訓子　幹事宇津木廣子　東村峯子　濱面民子　金子貞子　江藤照代子　田村彰子　福原德子　榊實子　下村花子　事務員にて高村課長其他本支部員等數名

◎次の書面は歩兵第四十八聯隊長伊豆凡夫氏より當地癈兵院長に宛たるものにして本部は亦癈兵院よりの相談に應じ直ちに福岡支部と交涉の上、本人に相當補助支給をすることゝなりたるものなり。

拜啓秋冷の候御勇健奉賀候然は當聯隊管區內福岡縣三瀦郡木室村大字中入院現住元陸軍步兵一等卒池末長太郎なる者頗る憐むべき癈兵にて終始仰臥するのみ偶々起きるも頭部の負傷は目迷を促がし家族一人は不斷附き添ひ居る有樣に有之軍醫に診斷せしめ候處癈兵院に入れなば適當なるも遠隔の地故擔員附き添ひ極めて徐行の旅行を要すと申候然れとも家族の情況も醫員や看護員を附き添はせ上京せしむる程の餘裕も無之就ては何とか貴院にて御處分は出來申間敷哉別紙寫眞入御覽候癈兵を看護せる婦人は當該村の愛國婦人會員幹事水落まち子に有之時々見舞ひ呉候故現狀を寫さしめしものに御座候
右情況申進得貴意候匆々不一

明治四十年十一月十八日

歩兵第四十八聯隊長　伊豆凡夫

癈兵院長川崎寅三殿

追而本人は頭部負傷の外凍傷の爲兩足共切斷せられたるものに有之候條申添候

(上欄寫眞參照)

◎韓國委員本部の活動に就きての謝狀
(愛國婦人第百號當附錄參照)

### 御禮狀

明治四十年夏期韓國事變に當り鋒鏑之間に負傷したる我將校以下に對し貴會京城會員には別表の如く八月七日より九月十五日に至る長時日間鎌中之暑も省みるなく終始或は病室に或は手術室に於ける篤志看護に從事せられ傍ら再三繃帶を改卷し或は脫脂綿紗之再用を圖り甚だ多大なる熱誠と精勵とを以て從事せられたる成績は善良なる結果を現實せられたるのみならず負傷將校以下一般一種之印象を刻し深く感謝之中に恰も慈母之下に於て加療しつゝあるに異ならずとして一般謹て謝意を表し申候幸に傷者一般經過佳良にして大部分は治療退院し殘るもの僅かに數名に及び已に敬愛すべき篤志者之意を煩はす要なきに達したるを以て九月十五日完美なる結果を以て貴會員之業務終了を見るに至りしに依り茲に入院傷者一同に代り謹て貴會に篤志勵行之段を御禮申上候
右總裁殿下に言上願上候　敬具

京城駐劄衛戍病院長　中川十全

愛國婦人會長
公爵夫人岩倉久子殿

◎寄附金　南鄉茂光氏より今回故本會評議員南鄉柳子氏の遺志に基き金百圓を本會へ寄贈せり。

◎豫て廣島長崎兩支部總會へ台臨あらせられたる　總裁殿下には岩倉會長等を隨へさせられ御恙なく昨四日午後九時新橋着汽車にて御歸京あらせられたり



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 社告

來ん明治四十一年宮中御歌始會の御題

社頭松

と仰出されたるに就き愛國婦人會員の讀者諸氏に限り當所にて取纏め囑托撰者の豫選を得て宮中へ差出可申に付御希望の方は料紙(任意)へ住所、姓名、族籍、を認め十二月卅一日限り出詠相成たし

愛國婦人發行所

## 緊急申告

支部内近況記事、愛國美談資料等續々寄送を望む

愛國婦人發行所

# 支部の近況

### ◎山梨支部より水害を蒙れるものゝ救護狀況報告

去る八月下旬本縣下に起れる水害は古今未曾有と稱せられ沃土は一朝にして沼湖と化し風雨に晒され飢餓叫喚する者山岳崩壞して深く土中に葬られし者濁流に瀕涙する者多くを生ぜしめ悲哀の聲喧しかりしかば九月一日當支部は本會優待員にして罹災せるものを救護の目的を以て災害を蒙りし各郡幹事部に其の報告方を依頼したり然に通路杜絶は勿論某郡の如きは調査をなすべき郡の職員並に事務員身を以て逃がれたる有樣にして否らざるものと雖も不慮の天災の爲め事務多忙にして回答を得ること頗る困難なりしも電信或は電話に由り再三督促の上九月二十四日漸く當支部が豫期の如く軍人遺族廢兵にして罹災救護の必要あるもの七十六名を生ぜし旨の回報を得たり依て該調査書を見るに被救護者は家屋家財を流失し埋沒せられ衣食に彷徨しづつあるの慘況にして防寒材料とては皆無なれば衣類を調製し金員と並用せば受救者の便宜たるべく且つ必要を認め九月二十七日臨時幹事會を召集し協議の結果救護金の中を割きて衣反物を購入し支部長以下各幹事に裁地綿並に裁縫料の寄附を乞ふことゝし十月三日全く調製を終り贈與狀と共に郡幹事之が配贈を委托せるを以て各幹事は曠野を越へ濁流を渉り被救護者を戸毎に訪問し本會の旨趣を語り慰問の辭を述べ金品を贈與せしかば一同其恩に感泣致候左に被救護者の數を示さば

被救護者　七拾六名

内

三十九名　本部臨時救護の分

三十七名　支部救護の分

又救護衣類調査に際し裏地綿裁縫料を寄附せられし各職員は(調製濟みの上支部へ到着順)

| 職名 | 氏名 | 枚數 |
|---|---|---|
| 支部長 | 武田濱子 | 四 |
| 副長 | 添田良子 | 三 |
| 同三 | 若尾幾久子 | 五 |
| 幹事 | 齋田久子 | 二 |
| 同 | 丸茂まさ子 | 一 |
| 同 | 森山ミネ子 | 一 |
| 幹事 | 堀内ひで子 | 一 |
| 同 | 權田きん子 | 一 |
| 同 | 川添しん子 | 二 |
| 同 | 小林文子 | 一 |
| 同 | 中込てい子 | 一 |
| 同 | 小林ひで子 | 一 |

| | | |
|---|---|---|
| 一 | 同 | 成島なか子 |
| 一 | 同 | 今井や代子 |
| 一 | 同 | 大木保代子 |
| 一 | 同 | 若尾きよの子 |
| 一 | 同 | 村松信子 |
| 三 | 同 | 若尾しい子 |
| 二 | 同 | 村上もへ子 |
| 一 | 同 | 名取正代子 |
| 五 | 同 | 矢島くに子 |
| 一 | 同 | 山本いち子 |
| 一 | 同 | 眞中文子 |
| 一 | 同 | 淺田トミ子 |
| 二 | 同 | 木村富世子 |
| 一 | 同 | 中山叔子 |
| 一 | 同 | 高木タネ子 |
| 一 | 同 | 百瀬幹事 |
| 一〇 | 同 | 石原と代子 |
| 一 | 同 | 福島なを子 |
| 一 | 同 | 守田ミツ子 |
| 一 | 同 | 中川おのへ子 |
| 一 | 同 | 大脇千代子 |
| 一 | 同 | 中川一千代子 |
| 一 | 同 | 風間千代子 |
| 一 | 同 | 進藤つる子 |
| 一 | 同 | 高橋りわ子 |
| 一 | 同 | 高見澤とも子 |
| 一 | 同 | 中山てい子 |
| 一 | 同 | 齋藤喜代の子 |
| 一 | 同 | 小林しよう子 |
| 一 | 同 | 腰巻エイ子 |
| 一 | 同 | 岩下幹事 |
| 一 | 同 | 高柳にう子 |
| 一 | 同 | 岩下幹事 |
| 一 | 同 | 百瀬まさよ子 |
| 一 | 同 | 望月てう子 |
| 一 | 同 | 深澤まつ子 |

右の篤志寄附者には不取敢支部長より天災救護事務補助に對する謝狀を贈れり

### ◎東京支部

支部幹事會は去る廿五日午後三時より開き千家會長夫人を始め五十餘名出席、臨時救護金贈與の件授產事業補助金下附の件並に會員募集に關する件等を協議し午後六時頃散會したりと

### ▲京橋幹事部

愛國婦人會京橋區幹事部にては去月廿四日午後一時より癈兵遺族慰藉會を開き區內軍人癈兵遺族百四十名を新富座に招待し慰藉會を催ほせり來會者は千家東京支部長を始め花房男夫人、高木男夫人、京橋名譽職員、各區主任幹事及會員千三百餘名京橋區長谷川壽太郎氏開會の辭を述べ大島光利氏の會務報告及び擴張方案に關する演說あり夫れより區內最困遺族廢兵十七名へ五圓以上二十五圓までの救護金及び同十九名に双子織反物一反宛を贈與し尚ほ一般參會者に紀念繪はがき及び菓子折等を配布して餘興に移り河合、伊井一座の喜劇及び大神樂、蓄音器、講談等種々の催しありて頗る盛會なりき

### ◎群馬支部

群馬支部前橋在住幹事諸氏は支部長有田ます子氏の辭職に對し去月十一日午後四時より曲輪町赤城館に送別會を催したり出席者六十有餘名にして先づ河西幹事正夫人の開會の辭に次ぎて有田前支部長の一揚の挨拶あり、了つて河西夫人の送別の辭及送別の和歌三首を朗吟し夫より餘興に移り河西夫人の仕舞熊野、阿部正太郎氏の地謠、田村羽生田今子氏外書人の野、鈴木玉子、石川ふく子岡氏の活人舊、太田道濫、小松きい子氏の影嶋、河西夫人の飯舞、其外會員の露藝數番ありて和氣靄々の裡に閉會したりと

### ◎山形支部

山形支部西田川郡榮村愛國婦人會員は去る十日鶴岡常盤樓に於て總會を開く會するもの七十名幹部よりは山宮幹事長澤皆川本部書記臨席の同村長は開會の辭を述べ式終るや盛大なる宴に移り午後八時散會したり

### ◎岩手支部

愛國婦人會岩手支部記事十一月五日

評議員會に於て決定したる事項左の如し本年度定期救護に關し當支部内軍人遺族及び廢兵千六百六十餘人に對し愛國婦人會本部より千四百三十四圓の配當贈與を受け今其現況を審査し結果被救護者と認むる者二百七十三人の多に達し是に本部配當金額のみにては一般の被救護者に對し遺憾なく之を贈與し能はざるの止むなきものあるを以て支部は三十九年度に於ける救護金の内千十九圓を支出し本部救護金に增加の上普く部内の貧困者に對し現今の生活狀態を斟酌し以て各幹事へ配當せは其金額贈與員左の如し

一金二千四百五十三圓

内千四百三十四圓　本部救護金

内千十九圓　支部贈與救護金

一人に付　丁 八圓　丙 五圓

人員　百九十六人　百七十七人　計三百七十三人

五百六十八圓　八百八十五圓　千四百五十三圓

備考　丁(六圓)丙(三圓)は本部規定の二割增額を與へしに是に支部救護金を增加し丁(八圓)丙(五圓)(割增)を與ふるを見るに至れり

盛岡市各幹事部救護者配當人員

盛岡市二〇人　和賀三七人　下閉伊郡二〇人戸江刺

郡二九八〇　岩手郡二〇人　澤郡三七人　九〇二四

八西磐井郡二〇人　紫波郡膽五人　氣仙郡二上人

二戸二三人　東磐井郡二三三　稗貫郡三六人　閉伊

郡二三人　計三七二人

右の外會員の增募會務の擴張方法等に就き種々協議の上午後五時解散せり因に本日の出席者は左の如し笠井

支部長帆足、下田兩副長、佐土原、長谷川、島地、小林、堂場各評議員其他山田主事等なり

### ◎福島支部

明年の共進會開期中に總集會を開催せんとするの議あれど右に關する費用は如何倹約するも約三千圓位を要すべしとの見込にて之が支出を何れに求むべきかに就き考慮中なりと

### ◎青森支部

赤十字支部總會を愈々明年開くことゝなれば勢ひ其機を以て愛國婦人會青森支部に於ても第二總會を開かざるべからざる次第なれば多分同時に開催を見るに至るべし然れども是亦會員不足數の充員と會費の完整を要すべきを以て其開否如何は一に婦人諸子の双肩に繫れり庶幾こゝ六ケ月間が男女決戰の關ヶ原とも謂ふべき歟

### ◎臺灣支部

嘉義愛國婦人會の活動兒蕃討伐隊の行動狀況は每日の紙上に報道せらるゝが如くにして其勞苦辛慘や實に心あるものゝ同情に堪へざる所なるが右に付き愛國婦人會臺灣支部嘉義廳委員部に於ては最も心を討伐隊日夕の境遇に注ぎ如何にもして滿腔の同情を事實に表彰し微意を致す所あらんとて協議中の折柄北部婦人團體が率先慰問金募集に着手せられたれば嘉義廳委員部にても亦此際管內同感の士女に訴へて慰問金の募集を爲すべきを協定し募集の一方法としては極めて有益なる開發的の活動寫眞及幻燈蓄音機の類を各所に開催し實費の幾分を引き去りたる殘額を[illegible]に充つる筈尚又討蕃隊慰問金品募集に就ては廳當局者も能ふ丈け後援的助力を爲すの方針にて目下夫れ〱盡力中なりと

### ◎韓國委員本部

愛國婦人會韓國委員部は昨年十一月京城に於て支部發會式擧行以來日尚淺きにも係らず日韓有志婦人の入會する者多く先般來本部を統監府內に委員部を各理事廳に置き夫々會務の擴張中にて現に當元山委員部に於ても亦十字社總會終了後は時機を見て夫々會員の募集に着手する筈なる由

### ▲元山愛國婦人會委員部

此際會務の擴張を計ることゝもなり既報の如く昨日午後三時より當地有力官民夫人數名は若松令夫人の招きに依り理事廳に參集先づ理事官より當地委員部の成立と擴張に盡力せられ度旨依賴の挨拶あり次に大橋主事は本會の主旨及び韓國に於ける本部各地委員部の情況等を述べて一同の贊同盡力を請ひたる後種々打合せの結果左の方針に依り擴張進行の由

一、韓國本部に在りては在留本邦婦人は勿論韓國女子を會員とし男子を贊助員となすものなれば韓國在住日本軍人の廢兵並に戰死者遺族及韓國軍人の廢兵及遺族の生活困難なる者に對し救護を實行するのみならず韓國駐劄軍隊及日韓傷病兵の慰問看護並に日韓婦人間の親睦融和に努め以て兩國の幸福を增進するを目的とす

一、來二十四日午後正一時より大芳樓上に於て當地委員部發會式を擧行すると

一、各役員夫人は發會式前手分けをなして會員の勸誘取纏めに盡力し二十三日午前中に一と先づ入會人員を理事廳內委員部に報告すること

一、發會式には擧曲其他手踊等數番の餘興を催すこと

一、內地にて會員たりし者にして年醵金未了の者は此際元山委員部所屬會員として會費を取纏むること

尚當日大塚渡邊兩氏は世話掛として出席幹旋する所ありたるが委員部發會式擧行に就き若松理事官より金五十圓を寄附せられ愛國婦人會韓國支部よりも金五十圓を補助する由

### ◎大阪支部

同支部はこれ迄目覺ましき活動としても爲ざりしが會の隆盛を來さんには先づ會の有効的實蹟を擧示して社會を刺戟せざるべからずとの趣旨により從來市役所に托しありたる軍人遺家族救護の調査を會の直轄事業とし去十三日以來同事務所より吏員を派し從來會員中における戰死者の遺族及び廢兵に就て精確なる調査をなし其の救護を要するものは會の規定に據りて漏れなく救恤を爲さんことを期しつゝあり尚右調査吏員をも近々增員すべしといふ而して同會所屬の授產場の目下二百十三名の授業者あり內三十名は寄宿會に收容し他に通勤者なるが通勤者中寄宿舍生活を希望するもの多きにも拘らず現在の寄宿舍は元々借家にかゝり手狹にて多數を收容する能はざるにより早晚會の基本金を以て地所を購入し適當なる寄宿舍を建設するに至るべしといふまた右授業場受業者は近頃主として第四師團兵士の外套及び括背囊及び在淸國本邦郵便局職員の制服を裁縫しつゝありてこれに從事する日勤者一日平均百四十名を算し就業者の種類は十八歳以上三十歳迄の女子最も多く十七歳以下の少女これに次ぎ六十五歳以上七十歳迄の老女も七人ありこれ等は何れも本業の餘暇毎日一時間宛裁科の教授を受つゝありと

### ◎慈善演藝會

大阪支部にては死殁軍人遺族の生活の機關たる同會手工場及幼年者寄宿舍擴築の資金を蒐集する目的にて去七日夜中の島公會堂に慈善演藝會を催ふし軍樂、筑前琵琶、浪花節(雲右衛門)等數番の演奏あり聽者堂に滿ち近來稀有の盛會なりき

### ◎岐阜支部

安八郡幹事部にては來春郡內の廢兵慰藉大會を開く豫定なるが其財源は音樂大會及びバザーを催して之に充てんとの計畫あり此程來役員會を開きて協議中(廿二日發)

### ◎新潟支部

新潟支部南蒲原郡幹事部第二回總會は十八日午前十時より三條町尋常小學校に開かる、當日は夜來大雨なりしに拘はらず出席者約六百名に上一同着席するや幹事部長藤脇福子總裁宮殿下御寫眞の垂布を揭げ一同敬禮ありて幹事部長開會を宣し支部長代理林支部副長(內務部長夫人淑子)は左の告詞を朗讀せらる

本日をトし南蒲原郡幹事部第二回總會を開き茲に熱誠なる諸氏と相會するは滿子の誠に欣喜に堪へざる所なり抑も本郡幹事部は曩きに第一回總會を開き爾來益々會務の擴張に努め今や會員千百有餘名を見るに至れり願ふに本會の事業は愛國の志に富みたる諸氏の贊助により戰後著しく發達せしと雖[illegible]果創增せる忠死者の遺族及び癈疾者の數[illegible]忽せにすべからざるものあるを以て更[illegible]擴張を圖らさるを得ず今や戰後各種の事[illegible]運日に隆盛に赴くの時に當り斯業の普及[illegible]は最も機宜に適するものなりと信ず冀く[illegible]奮つて愛國婦人の本領を發揮し以て本會の隆昌を期せられんことを一言述べて告詞とす

明治四十年十一月十八日

愛國婦人會新潟支部長

伯爵夫人　清棲滿子

次で藤脇幹事部長の答詞、來賓の祝詞演說會長公爵夫人岩倉久子の祝電朗讀、會員總代大橋ノブ子の祝詞ありて式を了はり夫れより階上階下にて宴會を開かれ餘興には大町雜と商店寄附の蓄音器等ありて盛會なりし尚ほ同幹事部現在會員は千百四十九人なるよし

## 愛國美譚

### あはれ國難に殉せし岩佐夫人

花よりも風情ある紅葉の錦、すさむ木枯にさそはれて、夜の間に名殘とゞめず吹きはらはれ、前栽の趣とみに淋しき昨日今日、貴夫人間の先輩として各婦人會の重鎭として敬慕せられつゝありし、侍醫兼宮中顧問官男爵岩佐純氏夫人德子刀自は去にし十七日六十八歳を一期として、麴町區一番町なる自邸に身まかり給ひけり。夫人は舊越前福井藩士松原治郎左衞門氏の娘にて、十六歳のをり、同藩醫岩佐家に嫁し、一男三女を擧げ、爾來四十餘年の間主婦として家を整へ、良人純氏の今日の盛名あるも、夫人内助の功与つて大なりといふ。夫人資性温良にして而も注意周到、家庭の内、常に春風の吹きわたれる心地せりとぞ。夫人は斯く内助の功のみならず、慈善教育の心がけ厚く、殊に深く佛教を信仰し給ひ、其生涯に竭されたる事業を擧ぐれば、東京養育院、岡山孤兒院、福田會、吉祥講婦人會、淑德婦人會、保育會、東洋高等女學校、東佛教會、東亞佛教婦人會、婦人法話會、令女婦人會、婦人正法會、延壽會、道生會、婦人能忍會、共立婦人育兒會等の幹事若くは評議員として重きをおかれ給ひ、殊は我愛國婦人會の爲には始めより奧村刀自等と共に創立委員たりし以來其全力を注がれし所にて、會の擴張のため、軍隊慰問の爲など、風雨寒熱更に意とし給ふ所なかりき。されば、我が總裁宮殿下は、夫人の病篤き旨聞こしめされ、特別徽章に添へて『夫人が斯かる病を得たるも畢竟戰役中過渡に身心を勞せられたる結果に外ならず。』との厚き感謝の辭を賜はりたり。是に由て觀れば、夫人の逝去は、日露戰役に原因せるとにて、即ち國難に殉せる陸海軍將卒と同樣なりといふべし。わけて夫人は故奧村刀自と親み深く、刀自は其身上の事までも夫人に打明けて語り、常に精神上物質上共に夫人の慰藉を受けつゝ、本會の爲に盡瘁したるなりといふ。

夫人は身體壯健の方なりしが、ゆくりなくも腎臟炎に罹り久しく病床に就かれしが、去にし六日頃に尿毒症を起し、十七日午前一時、病危篤に迫るや、從容として聲朗に佛陀の靈光たる(光明)を三唱し、更に南無阿彌陀佛を念誦し、眠るが如く瞑目し給へり。長男新氏(四十二)は日本橋蠣殼町岩佐病院長たり。さらぬだに、本會にては先頃酒井南鄕兩夫人を失ひて、小夜時雨に袂のかわかざる折なるを、今又濡れまさる袖をしぼるぞうたてきや。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 愛國婦人第百四十一號附錄

明治四十年十二月五日發行（每月二回五日廿日）
明治三十五年三月二十七日（第三種郵便物認可）

## 愛國婦人會職員小肖

評議員子爵夫人　松平てつ子

山口支部下關市幹事部長　佩二等有功章　小野田武子

長崎支部幹事部長　佩特別徽章　松永勢以子

廣島支部幹事　佩二等有功章　佐々木利惠子

東京支部幹事　佩二等有功章　關萬代子



發行兼編輯人　山澤俊夫
印刷人　大久保高明
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場
發行所　愛國婦人會內愛國婦人發行所

帝國圖書館 IMPERIAL LIBRARY
Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN